
職業人教育システムの
イノベーション研究拠点形成プロジェクト

2010 年度～2012 年度成果報告書



Kumamoto University

熊本大学大学院社会文化科学研究科

教授システム学専攻

目次

本プロジェクトの概要.....	1
I. 本プロジェクトの教員による研究業績.....	15
I-A. 学術論文 [23]件.....	15
I-B. 著書・訳書 [18]件.....	17
I-C. 国際会議 [27]件.....	19
I-D. 国内学会 [76]件.....	23
I-E. 招待講演 [116]件.....	31
I-F. 外部資金 [15]件.....	41
I-G. その他 [52]件.....	43
II. 本プロジェクト研究アソシエート（本専攻の学生および修了生）による研究業績.....	49
II-A. 学術論文 [11]件.....	49
II-B. 博士論文 [2]件.....	50
II-C. 国際会議 [12]件.....	50
II-D. 国内学会 [98]件.....	52

本プロジェクトの概要

これまでの教育活動研究

1. 教授システム学専攻における教育研究

熊本大学大学院教授システム学専攻は、日本初の e ラーニング専門家養成大学院として平成 18 年度に設置され、20 年度には博士後期課程を整備して教育研究体制を確立し、情報技術 (IT) を活用した教育システムの構築を支える学問的基盤として「教授システム学」の体系的な研究教育を展開してきている。教授システム学は、学習効果の高い教育をシステムの的に実現するために不可欠な以下の 4 領域(4 つの I)を体系化した教育研究分野として、日本で初めて熊本大学が確立した。

- ・ ID: instructional design 教育設計
- ・ IT: information technology 情報技術
- ・ IP: intellectual property 知的財産権
- ・ IM: instructional management 教育マネジメント

2. 大学院 GP による先端的教育の研究開発

熊本大学大学院教授システム学専攻は、平成 19 年度から 21 年度にかけて、大学院 GP (大学院教育改革支援プログラム) に採択された「IT 時代の教育イノベーター育成プログラム」を推進した。国境を超え、大学・企業等の境界を超える、e ラーニングの特色を活かした先端的教育の研究開発として、グローバル化する知識社会の教育イノベーションへの貢献を目指す以下の 4 プロジェクトを実施した。

- ・国際産学共同開発による「ストーリー型カリキュラム」の導入
- ・国際連携による「e ポートフォリオ」活用教育改善システムの開発
- ・外国大学との戦略的連携による国際遠隔共同授業の開発
- ・高等教育・企業内教育連携による「学びと仕事の融合学習」の開発

大学院 GP の取組を通じ、本専攻の研究開発と教育実践は、IT 活用による教育の高度化はもとより、大学院教育の実質化の面においても、先進事例として全国的に認知され、我が国の高等教育へ波及効果を及ぼしてきている。

3. 我が国に稀有な職業人教育に関する研究教育を担う大学院

全国どこからでも e ラーニングで学位が取得できる本専攻は、学生のほとんどが有職社会人であり、過半数が企業内教育関係者 (民間教育サービス事業者、所属企業における人事・研修担当者等)、次いで大学等高等教育機関の職員・教員が 3 分の 1 強を占めるなど、企業・大学等における広範な職業人教育のために多様な人材を輩出している。我が国では、企業内教育に関する研究教育を行う大学院がほとんどないことから、本専攻は、e ラーニ

ングに限らず、企業・大学等における職業人教育に関し、全国的に知られる存在となっている。

拠点形成の目的、必要性・重要性

1. 拠点形成の目的

I C T活用教育の専門家に必要な職務遂行能力に基づき教育課程を編成した教授システム学専攻の実績の上に、高等教育と企業内教育等を横断的に包含する職業人教育システムに関する研究を更に高度化し、イノベーションを先導する全国拠点として地位を確立する。

また、本拠点における人材育成を通じて、職業人教育システムに関する研究者等が多数輩出されることを目指す。

2. 必要性・重要性

海外では、産学連携教育を含め、高等教育と企業内教育等がシームレスにリンクした職業人教育システムが当たり前になっている。そこでは、eラーニングによる遠隔教育のほか、対面指導・集合研修とeラーニングを組み合わせたブレンディッド・ラーニング等、I Tの活用は、教育機会の拡大や学習の効果・効率の向上のための重要な手段となっている。ところが、我が国では、高等教育における職業人教育が未成熟であり、高等教育と企業内教育の間に断絶がある。また、かつてO J Tを強みとした日本企業も、経済の長期低迷の中で人材育成の余裕を失っている。さらに、官民ともI T活用の遅れが指摘される。

一方、我が国の大学の教育学分野の研究教育は、「ペダゴジー (pedagogy)」(子どもを対象とした教育理論) に偏り、「アンドラゴジー (andragogy)」(大人を対象とした教育理論) の視点からの研究教育が不十分である。また、企業内教育に関する研究教育を行う大学院は、本専攻以外にほとんどない。我が国の人材育成上の重要課題に大きく貢献し、世界最高水準を目指し得る研究拠点として活動している。

拠点形成計画の構想

職業人教育システムのイノベーションに不可欠な教育設計、I T活用、教育マネジメント等の領域の専門家が学際的に協力し、研究教育を推進する。また、研究協力をインターネットを活用し、他大学との連携、産学連携、国際連携等を発展させ、ネットワーク型の研究教育の拠点形成を目指す。

1. 研究活動

以下の諸テーマについて、学際的な研究ユニットを編成し、研究を実施する。

- ・教育イノベーションの基盤となる教授・学習システム開発

- ・プロフェッショナル(専門職業人)養成・研修システムのイノベーション
- ・高等教育におけるエンプロイアビリティ(就業力)育成システム
- ・学習支援システムやポートフォリオ等のシームレスな統合システム開発

2. 人材育成

博士後期課程の学生全員並びに前期課程学生及び本専攻の修了者のうちの希望者を上記の研究ユニットのアソシエートとし、研究実施の体制に組み入れ、研究能力の向上を図る。

拠点の運営体制

教育設計、IT活用、教育マネジメント等の領域の専門家が学際的な研究ユニットを編成（各人が複数ユニットに所属。○主：主所属；○副：副所属）し、ユニット間の連携を確保しつつ研究を進める。拠点リーダー、サブリーダー、ユニット代表をメンバーとする研究拠点形成委員会が、研究教育及び運営の総合調整に当たる。合わせて、アソシエートとして本研究プロジェクトに参加の意思を示した修了生や在学社会人大学院生と連携して進める。

●職業人教育システム・イノベーション研究拠点形成委員会

メンバー：鈴木、中野、(入口※1,) 喜多、都竹※2、戸田※2、大森

・ユニットA「教授・学習研究ユニット」

テーマ：教育イノベーションの基盤となる教授・学習システム開発

メンバー：鈴木⊕、合田⊕、根本⊕、中野⊕、(入口⊕※1,) 都竹⊕※2、戸田⊕※2

・ユニットB「プロフェッショナル研究ユニット」

テーマ：プロフェッショナル養成・研修システムのイノベーション

メンバー：(入口⊕※1,) 都竹⊕※2、戸田⊕※2、江川⊕、北村⊕、大森⊕、喜多⊕、渡邊⊕

・ユニットC「エンプロイアビリティ研究ユニット」

テーマ：高等教育におけるエンプロイアビリティ(就業力)育成システム

メンバー：大森⊕、渡邊⊕、江川⊕、北村⊕、松葉⊕

・ユニットD「システム研究ユニット」

テーマ：学習支援システムやポートフォリオ等の統合システム開発

メンバー：中野⊕、喜多⊕、松葉⊕、鈴木⊕、戸田⊕※2、合田⊕、根本⊕

※1 入口教授は2011年度末に定年退職

※2 都竹教授・戸田教授は2012年度に着任

2010 年度～2012 年度の成果

本研究プロジェクトにより、高等教育と企業内教育等を横断的に包含する職業人教育システムに関する研究が一層高度化され、教授システム学専攻の博士前期（修士）課程・博士後期課程における人材育成を通じて、職業人教育システムに関する人材育成の高度化を図るとともに、イノベーションを先導する全国的な拠点としての地位の確立、世界最高水準の研究に繋がりにある。

以上の成果が、34 件の学術論文をはじめとする以下の成果指標に表れた（表 1）。

表 1 本研究プロジェクトの成果

		教員	学生	計
学術論文		23	11	34
博士論文		-	2	2
著書・訳書		18	-	18
国際会議		27	12	39
国内学会		76	98	174
招待講演	研究	31	-	31
	教育	85	-	85
外部資金		15	-	15
その他		52	-	52
計		327	123	450

●ユニットA「教授・学習研究ユニット」

テーマ：教育イノベーションの基盤となる教授・学習システム開発

教育イノベーション基盤となる教授・学習システム開発では、①実践に役立つ「実践研究」を進めるとともに、②よりよい教育を実践するための基盤となる理論や背景を整理した研究、また、これらの研究をもとに、より革新的な試みとして③イノベーティブな学習・教授法に関する研究を推進した。その成果を「国際的な研究拠点」としての役割を果たすために、④世界へ発信も積極的に行った。

①実践研究・実践に役立つ研究

Nemoto ほか (I-A-12) は、リフレクションを促すためのツールとして「ラーニングスケッチ」を提案し、それをオンライン大学院に導入することにより学生の振り返りを支援する方法を提案した論文である。Nemoto ほか (I-A-22) は、オンライン大学院のカリキュラムにある「eラーニング実践演習」中に現実の開発課題を組み入れた成果を報告した論文（英文）である。Nemoto & Suzuki (I-C-8) は、オンライン大学院のオリエンテーションについての評価研究を国際会議で報告したものである。

合田ほか (I-A-10) は、科目密着型評価の実践で PDCA サイクルを実現した実践を報告した論文で、改善するための提案が評価された。Goda ほか (I-C-27) は、学習者支援の必要時期を予測する理論応用モデルの実装と開発を、また Goda ほか (I-C-15) は協調学習環境における多様性支援の手法をそれぞれ国際会議で報告したものである。

高橋ほか (II-D-10 : II-D-14) は本プロジェクトと熊大病院とのコラボレーションにより段階別のフィジカルアセスメント事例を用いた新人看護師教育に eラーニングを用いる試みの学会報告であり、今後の研究成果が期待される。

②よりよい教育を実践するための基盤となる理論や背景を整理した研究

鈴木・根本 (I-A-14) は、教育設計についての最新の理論動向を解説した教育システム情報学会編集委員会からの依頼論文である。鈴木 (I-A-2) は日本教育工学会論文誌の「大学教育の改善・FD 特集号」に掲載された総説論文（招待）である。これまでの本プロジェクトにおける実績を踏まえて、教育設計学 (ID) の知見を FD にかすための提言を行った。鈴木・根本 (I-A-1) は、本プロジェクトでの実績を踏まえて、医療分野向けの総説論文として日本医療教授システム学会の論文誌に発表したもので、教育実践をデザイン研究論文にすることを推奨した。本領域での今後の研究アプローチを提案したものとして注目を集めている。

Suzuki & Nemoto (I-C-2) は、文科省科研費挑戦的萌芽研究の成果を国際会議で発表したもので、文化的・社会的要因を教育設計に取り入れる手法の研究動向を検討した。

合田 (I-A-23) は、英語力分類の理論を比較し、リメディアル教育における実践の効率化を提案した。合田・山田 (I-A-3) は、海外の e ラーニングによる英語教育に用いられている学習理論を整理したもので、e ラーニングの普及に役立つと評価された。

Nakajima ほか (II-A-5) は、学習・教授法の分野で広く用いられてきた動機づけ理論 (ARCS モデル) の拡張について詳細に検討して新たな実践的応用を模索し、提案したもので、国際会議における発表 (Nakajima ほか : II-C-12) を編集委員の推薦を受けて拡張して投稿し、採録されたものである。また、その後の研究成果を続報として国際会議で発表 (Nakajima ほか : II-C-3) し、博士論文への発展を準備している。

③イノベーティブな学習・教授法に関する研究

根本ら (I-A-11) は、教育設計理論 (ストーリー型カリキュラム) をオンライン大学院に適用した国内初の事例において学習デザインの改善サイクルにより徐々に教育実践をレベルアップした研究成果を報告し、2012 年度日本教育工学会論文賞 (該当数 1) を授与され、高く評価された。ストーリー型カリキュラムについては、看護教育に応用した研究 (Kitamura ほか : II-C-7、北村ほか : II-D-93) や学習システムの開発研究 (高橋ほか : II-D-1)、ストーリー文脈を背景の違う学習者に合わせるためのアドオンの提案 (竹岡ほか : II-D-12、II-D-34)、プロジェクトマネージャー育成に応用した実践研究 (前田ほか : II-D-17、片野ほか : II-D-46)、文系大学での情報教育に応用した研究 (朴ほか : II-A-9、II-D-76、II-D-94) など多くの研究アソシエートが取り組んでおり、今後さらなる研究成果の蓄積が期待できる。

Kato & Suzuki (II-A-4) は、学習・教授法の分野で今まで注目されてこなかったフロー理論を教育に応用するためのフレームワークを提案したもので、国際会議における発表 (Kato & Suzuki : II-C-11) を編集委員の推薦を受けて拡張して投稿し、採録されたものである。また、その後の研究成果を続報として国際会議で発表 (Kato & Suzuki : II-C-5) し、博士論文 (2012 年 10 月提出) の基幹成果となった。

④国際的貢献、海外へ研究成果の発信

教育設計に関する日本における研究成果を海外へ発信したものとしては、日本の大学における質保証の仕組みとオンライン大学院における実例を紹介した Suzuki (I-B-1) や、日本と韓国の教育設計研究と実践の特徴を報告した Suzuki & Insung (I-B-8)、教育システム学会の研究動向を国際会議で報告した Suzuki (I-C-17)、日本における教育設計理論 (ARCS

モデル) についての研究動向を国際会議で報告した Suzuki & Nemoto (I-C-22) などがある。

鈴木は国際標準策定団体 (ibstpi) の理事として、2007 年から教育設計関連専門職のコンピテンシーの策定作業にかかわってきた。その研究過程における調査結果を報告したものに鈴木 (I-D-65) があり、研究成果を日本に報告して活用方法を提案したものに鈴木 (I-D-17) がある。またオンライン学習者の成功要因としてのコンピテンシー策定の経緯について国際会議に報告した研究として Grabowski ほか (I-C-11) がある。

●ユニットB「プロフェッショナル研究ユニット」

テーマ：プロフェッショナル養成・研修システムのイノベーション

プロフェッショナル養成・研修システムのイノベーションを構築するための研究としては、①医療、②大学、③企業・組織の各分野において、トレーニング手法、教育モデル、人材の能力開発、運用支援、普及法などに関する研究を推進した。

①医療分野における研究

村木ほか (II-A-10) は、インストラクショナルデザイン(ID)初学者でもブレンド型学習をデザインできるよう OPTIMAL モデルのチェックリストを開発し、麻酔科領域の医学教育において有用であることを報告した論文である。

鈴木は厚労科研費 (分担研究者、I-F-5) において、医療の質・安全の向上をめざしたシミュレーション教育・研修システムの開発および遠隔教育への応用を ID の立場から取り組んでいる。都竹は科研費 (主任研究者) において、保健指導者が活用できるメタボリックシンドロームの予防改善に資するプログラム開発を ID の立場から取り組んでいる。

岩永ほか (II-D-23) は、ID の手法を取り入れ、初学者にも効果的な心肺蘇生講習法の開発、報告した。荒井ほか (II-D-24) は、医療者教育にビデオ教材を活用し、患者急変時の対応について学習するプログラムを開発、報告した。同様に ID の手法を活用し、紙谷ほか (II-D-41) は内視鏡カメラ管理業務の効率化を、青木ほか (II-D-54,II-D-66) は患者急変時のシミュレーショントレーニングプログラムについて開発、報告した。廣庭ほか (II-D-25) は、急性期病院に勤務する医師・看護師・理学療法士など医療従事者のパフォーマンスの現状を分析、報告した。

森田 (II-A-8) は、MR 教育者のニーズ分析を踏まえ、対面セミナー受講後に疑問点を解決する機能、参考リンク集、教材作成フォーマットのダウンロード機能、製薬業界の教育実践事例の紹介などを備えた学習ポータルサイトを開発した。MR 教育者の教授スキル向上が期待でき、今後は他領域の教育者への応用可能性もある研究である。

②大学分野における研究

Nakamichi ほか (II-C-2、II-D-13) は、大学の FD 活動に e ラーニングを全学的に普及させる施策およびその効果について報告した。

野田ほか (II-D-30, II-D-45,II-D-56) は、テキストによる知識の提供に留まることなく、ゴールベースシナリオ (GBS 理論) に基づく大学事務職員向けの学習支援職務 e ラーニングプログラムを開発し、その効果について報告した。

宮原ほか (II-A-2、II-A-11、II-D-55、II-D-89) は、「組織的な支援体制を構築することで、e ラーニングを活用した高等教育機関の授業も対面授業と同等の学習効果を得ることは可能である」との仮説のもと、支援組織体制・大学 e ラーニングマネジメントモデル

(UeLM) を社会人向け講座に適用したときの効果について検証し、対面授業と同等の学習効果をあげることが可能であることを報告した。この成果は、宮原俊之氏の博士論文として結実した (II-B-2)。

③企業・組織分野における研究

北村ほか (I-D-19) は、知財人財育成に特化した講師の養成法について ID の観点から検証し、報告した。前田ほか (II-D-17) は、GBS 理論に基づくプロジェクトマネージャー育成 e ラーニング教材の設計・開発し、その効果について報告した。

櫻井ほか (I-D-22) は、e ラーニング専門家人材に必要なコンピテンシーについて再検証し、人材と企業を結びつける有用性を提案した。

●ユニットC「エンプロイアビリティ研究ユニット」

テーマ：高等教育におけるエンプロイアビリティ(就業力)育成システム

高等教育におけるエンプロイアビリティ（就業力）育成システムを構築するための研究としては、①海外や国内の高等教育におけるエンプロイアビリティ（就業力）育成の現状調査と課題提起、②高等教育におけるエンプロイアビリティ（就業力）育成のためのソリューションの提案と実践、③高等教育におけるエンプロイアビリティ（就業力）育成のためのツールやシステムの開発と運用、に関する研究がある。

①海外や国内の高等教育におけるエンプロイアビリティ（就業力）育成の現状調査と課題提起

大森 (I-A-17) では、日本の大学の問題点を指摘し、グローバル改革を3つ提案している。大森 (I-A-9、I-B-14) は、英国を中心に、国際比較（グローバルスタンダード）の上に立って、日本の現状と課題について述べている。また、大森を研究代表者としている科研費 (I-F-9) では、英国やフィンランドでの事例調査を行うことと合わせて、国内の企業の人事研修担当者のインタビューを行って、高等教育に求められているエンプロイアビリティ（就業力）を規定しようとしている。さらに、大森 (I-B-16) では、学歴社会の再構築のために、人材の流動化が必要であることを指摘している。

そして、大森 (I-A-15) では、汎用的スキル（批判的思考力、問題解決力、情報収集力）の重要性から、リーダーシップ、コミュニケーション、対人関係スキルの育成を求められていることを明らかにしている。

②高等教育におけるエンプロイアビリティ（就業力）育成のためのソリューションの提案と実践

高等教育におけるエンプロイアビリティ（就業力）育成のためのソリューションとして、まず、合田・山田 (I-A-3) や朴ほか (II-A-9、II-D-76、II-D-94) では、語学と情報の可視化しやすいローレベルスキルの育成を規定している。そして、桑原ほか (II-D-8、II-D-27) では、自分のキャリア開発を初年次教育に埋め込み、職業ビジョンの明確化を行っている。

それらを踏まえて、問題解決力、批判的思考力のようなハイレベルスキルを育成する教育方法の導入の成果を検証している研究もある。上田ほか (II-D-40) では、エンプロイアビリティの基礎となる汎用的能力育成のためのPBLとその学習評価手法を研究している。また、上田ほか (II-D-52) では、問題解決型学習デザインを分析し、Project Based Learning と Problem-Based Learning を整理している。

一方、医療や教職のような専門職には必要とされるスキルがあり、それを育成する必要がある。須曾野ほか (II-D-3) では、教師として採用してもらえるように、自己アピールする一手段として、ストーリーテリングをできる力を育成している。また、谷塚ほか (II-D-31)

では、教職志望学生の成長のためにはどのような経験をしておくとういものの分析枠組みを
検討している。

③高等教育におけるエンプロイアビリティ（就業力）育成のためのツールやシステムの開 発と運用

③高等教育におけるエンプロイアビリティ（就業力）育成のためのツールやシステムと
して、(1) ストーリー中心型カリキュラム、(2) eポートフォリオに関する研究がある。

(1) ストーリー中心型カリキュラム

根本ほか（I-A-11）では、社会人を対象とした大学院修士課程における教育方法として、
ストーリー中心型カリキュラムを導入している。ストーリーによって仮想的な業務体験を
させることで、大学院での学びを現実社会の文脈へ応用できるようにしており、社会人と
してすぐに活かせる具体的な実践方法を修得させている。

(2) eポートフォリオ

Handa et al.（I-A-13）では、eポートフォリオを活用して、高等教育におけるエンプロ
イアビリティ（就業力）を育成しようとしており、そのためのシステムと運用方法を提案
している。

●ユニットD「システム研究ユニット」

テーマ：学習支援システムやポートフォリオ等の統合システム開発

学習支援システムやポートフォリオ等の統合システム開発研究としては、①オープンソースの学習支援システムの効果的利用や拡張に関する研究、②eラーニングでの自主的な学習を支援するツールの開発、③組織的活用を視野に入れたeポートフォリオシステムの開発を主に行い、④その他様々な視点からのシステム開発に関する研究を実施した。

①オープンソースの学習支援システムの効果的利用や拡張に関する研究

Moodleなどのオープンソースの学習支援システムを対象とし、高等教育・職業人教育に役立つ運用方法や拡張などについて研究し、評価や開発を行った。

pdf2submissionは、熊本大学の教員からの要望で開発を開始したもので、手書きのレポートや、紙で提出された試験答案用紙をeラーニングシステム上で簡単に扱うためのMoodle用アドオン（追加機能）である（I-C-1, I-D-36, I-D-43）。最近注目を集めている、学習者を軸に学習成果物を蓄積・活用するeポートフォリオシステム（③で紹介）との連携も考慮し、紙ベースで収集した学習成果物を無理なくeポートフォリオに取り込むことにも活用できる。200カ国以上で利用されているMoodleの公式リポジトリに審査を経て既に登録・一般公開され、他大学での利用実績もいくつかある。

Moodleのグレードブック（成績表）データに基づき学習進捗表示サイトを随時更新するプラグインの開発（I-D-3）や、eラーニングの標準規格であるSCORMコンテンツ中での数式処理と可視化に関する研究（I-D-37）も行っている。

②eラーニングでの自主的な学習を支援するツールの開発

教育設計学（ID）、成人学習学（アンドラゴジー）などの教授・学習理論を踏まえて、eラーニングにおける自主的な学習を支援するシステム開発を行った。

高橋ほかは、IDにおける学習者制御の知見を踏まえて「学習者に選択権をゆだね、システムからは選択の際のアドバイスを与えることにとどめる」こととし、学習課題分析に基づく3つのツールの開発と有用性の検証を行った（II-A-1, II-A-3, II-D-35など）。国内学会・国際学会等で高い評価を得て、高橋暁子氏の博士論文として結実した（II-B-1）。

森田ほか（II-A-8）は、アンドラゴジーなどの先行研究から「ユーザー第一主義であること」などの5つの着眼点を見出し、製薬業界において医薬情報担当者（MR）の育成を行う教育担当者の資質向上を目的とした学習ポータル設計およびプロトタイプ開発を行った。

③組織的活用を視野に入れたeポートフォリオシステムの開発

eポートフォリオシステムは、学習者を軸とした長期的な学習成果の蓄積・融合・深化を可能にし、個人ばかりか組織としての分析・評価・認証等にも活用できることから近年

注目を集めており、本学においてもアクションプランの14番でその開発と活用を謳っている。eポートフォリオシステムは、学部、大学院等といった枠を超え、社会人となっても何らかの学びを続ける限り、その継続的活用が有効であり、大学教育と職業人教育を繋ぐ本拠点の主旨にまさに合致する。

本専攻が2007年度から3年間支援を受けた大学院GPの中でも大きなテーマの1つとして研究開発を行い、Matsubaほか(I-B-2、I-C-3、I-C-10、I-C-23)による、オープンソースのeポートフォリオシステムOSP(Sakai CLEに内包)の他のeラーニングシステムとの連携やショーケース等の機能拡張に関して研究を行った。

また、熊本大学として2009年度から3年間支援を受けた学士課程GPにおいては、本専攻の成果を元に学士課程全体への拡張に取り組んだ。同時に本学のカリキュラムやアウトカムに対する意識も高まり、専門科目の学習成果目標の設定や各プログラム単位でのカリキュラムマップの作成等、日々改革が進行しており、それらの実現を目指すシステムの設計・開発(中野ほか:I-D-11、I-D-15、I-D-25)を行なっている。

④その他様々な視点からのシステム開発に関する研究

Wannous & Nakano (I-A-20) は、Webベースの仮想学習環境「NVLab」をクラウドの基盤技術を用いて構築し、eラーニングでのコンピュータネットワーク演習に有効であることを示した。この結果はIEEEトランザクション等に掲載され、国際的に高い評価を得た。

及川ほか(II-C-1)は、自身が担当している工学部の基礎化学の授業において、多数の課題を自動生成するeラーニングシステムを開発し、効果的な学習を提供できる可能性を示した。甲斐ほか(II-C-4)は、留学生への日本語教育の経験から、比較的動機づけの弱い学習者を対象として、学習者ごとの興味や学習段階に適応した課題を推薦する日本語学習ナビゲーションツールを開発し、動機づけや使用場面の想起の向上がみられることを明らかにした。井ノ上・鈴木(I-D-14、I-D-28、I-D-44、I-D-48、I-D-56)は、テレビゲーム業界の「ゲームニクス」を踏まえた教員用LMSインターフェースを開発し、eラーニング教材開発に不慣れな教員への支援を試みた。これら3つの研究は、博士取得に向けた研究の一環として深く掘り下げつつある。

今後の研究成果が期待されるこれからのシステム開発研究としては、次のものがある。教授システム学専攻における非同期遠隔型のeラーニング経験をもとに、協調学習環境の構築を目指した研究として、市橋ほか(II-D-48)の学習者相互の「つながり感」を高めるツールの開発、石井ほか(II-D-28、II-D-49) Google DocsをMoodleの活動として利用するモジュールの開発が行われた。麻生ほか(II-D-86)は、10年にわたるビデオアーカイブスプロジェクトから、10年にわたるビデオアーカイブスプロジェクトから、黒板による数学講義ビデオの有効活用を考え、着目すべきポイントや参考資料のオーバーレイ表示等といった学習者支援機能の設計と実装を行った。西本ほか(II-D-81)は、鈴木が提唱した「e

ラーニング質保証レイヤーモデル」を、授業の分析や設計に応用するためのツールを開発した。

研究業績

「代表者（鈴木）」は二重実線の下線、「分担研究者」は実線の下線、「アソシエート」は破線の下線である。★印の業績は、ユニット別報告にて代表的な成果として採り上げたものである。

I.本プロジェクトの教員による研究業績

I-A.学術論文 [23]件

- I-A-1. [★A] 鈴木克明・根本淳子 (2013 印刷中)「教育改善と研究実績の両立を目指して：デザイン研究論文を書こう[総説]」『医療職の能力開発』（日本医療教授システム学会論文誌）1 (2) 2013 年 1 月発行予定（採録決定）
- I-A-2. [★A] 鈴木克明 (2013)「大学における教育方法の改善・開発[総説]」 日本教育工学会論文集, 36 (3) (特集号：大学教育の改善・FD), 171-179
- I-A-3. [★A][★C] 合田美子, 山田政寛. (2012). 海外のリメディアル教育における e ラーニングの研究動向と適用・応用される学習理論. リメディアル教育研究 第 7 巻 第 2 号特集号「英語教育における e ラーニング:過去, 現在, 未来」pp. 19-29
- I-A-4. Hiroki Kobayashi, and Masashi Toda, (2012) "Utilization of Textural Features in Video Retrieval System by Hand-writing Sketch", International Journal of Image, Graphics and Signal Processing (IJIGSP), Vol.8, No.8, pp.1-7.
- I-A-5. 右田雅裕, 杉谷賢一, 久保田真一郎, 武藏泰雄, 永井孝幸, 戸田真志, 喜多敏博, 松葉龍一, 辻一隆, 島本勝, 木田健, 宇佐川毅, 中野裕司, 大規模 PC 実習室システムの更新及びその利用状況, 学術情報処理研究, No.16, pp. 80-85 (2012).
- I-A-6. 石川圭佑, 戸田真志, 櫻沢繁, 秋田純一, 近藤一晃, 中村裕一, (2012) "表面筋電信号を用いたウェアラブル型ミュージックインタフェース", 芸術科学会論文誌, Vol.11, No.2, pp.12-20
- I-A-7. Kazuma Mishimagi, Masashi Toda, and Toshio Kawashima, (2012) "Design of Tabletop Interface for Adding Tags to Non-Annotated Image Collections through Natural Discussion", International Journal of Intelligent Systems and Applications (IJISA), Vol.4, No.7, pp.37-42

- I-A-8. 齋藤裕・松田岳士・合田美子・山田政寛・加藤浩・宮川裕之 (2012) 「自己調整学習サイクルの計画段階に注目した e メンタ負担軽減システムの開発と評価」日本教育工学会論文誌 36 (1) 9-20
- I-A-9. [★C] 大森不二雄 (2012) 「英国における大学経営と経営人材の職能開発—変革のマネジメントとリーダーシップ—」名古屋高等教育研究, 第 12 号, 67-93
- I-A-10. [★A] 合田美子, 望月俊男, 野口新司, 松田岳士. (2012). e ラーニングプロジェクトにおける PDCA サイクルを実現する科目密着型評価の実践. 教育システム情報学会誌, 29 卷 1 号, 26-38.
- I-A-11. [★A][★C] 【2012 年度論文賞】根本淳子・柴田善幸・鈴木克明 (2011) 学習デザインの改善と学習の深化を目指したデザイン研究アプローチを用いた実践. 日本教育工学会論文誌, 35 (3) (特集号: 新時代の学習評価), 259-268
- I-A-12. [★A] Nemoto, J., Oyamada, M., Shibata, Y., & Suzuki, K. (2011). "Learning Sketch": A Tool for Learning Reflection Activity. International Journal for Educational Media and Technology, 5(1), 162-175.
- I-A-13. [★C] Handa, J., Arame, M., Goda, Y., Naganuma, S., & Gondo, T. (2011). Using e-Portfolios: The Impact of Online Group Work. International Journal for Educational Media and Technology, 5(1), 75-85.
- I-A-14. [★A] 鈴木克明・根本淳子 (2011) 「教育設計についての三つの第一原理の誕生をめぐる[解説]」教育システム情報学会誌, 28(2), 168-176
- I-A-15. [★C] 大森不二雄 (2011) 「大学院におけるエンプロイアビリティの育成—英国の現状から浮かび上がる課題—」大学論集, 第 42 集, 353-369
- I-A-16. 久保田真一郎, 副島慶人, 川村諒, 杉谷賢一, 武藏泰雄, 永井孝幸, 入口紀男, 右田雅裕, 喜多敏博, 松葉龍一, 辻一隆, 島本勝, 木田健, 宇佐川毅, 中野裕司, (2011) 学内無線 LAN アクセスポイントを利用した位置推定における歩行者の影響について, 学術情報処理研究, No.15, pp. 82-88.
- I-A-17. [★C] 大森不二雄 (2010) 「グローバル人材が躍動する社会を目指す教育・雇用改革—閉塞する日本に対する唯一の処方箋—」大学マネジメント, Vol.6, No.8 (2010 年 11 月号), 12-22
- I-A-18. 大森不二雄 (2010) 「学習成果に基づく学位課程のシステムの統合モデル—学士課程教育の構築と大学院教育の実質化の本質—」国立教育政策研究所紀要, 第 139 集, 101-110

- I-A-19. Muhammad Wannous and Hiroshi Nakano, (2010) Constructing and Tuning a Web-based Virtual Computer-Networks Laboratory, IEEE Multidisciplinary Engineering Education Magazine, Vol. 5, No. 2, pp.20-25.
- I-A-20. [★D] Muhammad Wannous and Hiroshi Nakano, (2010) NVLab, a Networking Virtual Web-Based Laboratory that Implements Virtualization and Virtual Network Computing Technologies, IEEE Transactions on Learning Technologies, Vol. 3, No. 2, pp. 129-138.
- I-A-21. 右田雅裕, 杉谷賢一, 久保田真一郎, 武藏泰雄, 永井孝幸, 入口 紀男, 喜多敏博, 松葉龍一, 辻一隆, 島本勝, 木田 健, 宇佐川毅, 中野裕司, (2010) コストに配慮したキャンパス全域ギガビットネットワーク, 学術情報処理研究, No.14, pp. 48-55.
- I-A-22. [★A] Nemoto, J., Kubota, S., Migita, M., Nagai, T., Kitamura, S., Kita, T. & Suzuki, K. (2010). Design-Based Research of Authentic Learning: Lessons Learned From Improving an Online E-learning Specialist Graduate Program. The Journal of Information and Systems in Education, 9 (1), 57-68
- I-A-23. [★A] 合田美子(2010).英語力分類の効率化のための語彙サイズテスト項目の精選 (古典的テスト理論とラッシュモデルを用いた分析) . リメディアル教育研究 第5巻 第1号, pp. 28-36

I-B.著書・訳書 [18]件

- I-B-1. [★A] Suzuki, K. (2012)Japan's Kumamoto University online graduate school(Chapter 9). In I. Jung, T. M. Wong, & T. Belawati (Eds.), Quality assurance in distance education and e-learning: Challenges and solutions from Asia. New Delhi, Sage Publications India, 139-154.
- I-B-2. [★D] 松葉龍一・宮崎誠・中野裕司 (2012)「Sakai CLE/OSP を利用した学習ポートフォリオシステム—熊本大学大学院教授システム学専攻における活用実践 (第6章)」小川賀代・小林道昭 (編著)『大学力を高める e ポートフォリオ—エビデンスに基づく教育の質保証をめざして—』、p.79-94
- I-B-3. 渡邊あや (2012)「PISA にみる学力観と学力向上をめぐる各国の動向」金龍哲編著『教育と人間社会』協同出版、166-176

- I-B-4. Yamada, M., & Goda, Y. (2012). Application of social presence principles to CSCL design for quality interactions (pp.31-48). In Jia, J. (Ed.), Educational stages and interactive learning: From kindergarten to workplace training. IGI Global. DOI: 10.4018/978-1-4666-0137-6.ch003
- I-B-5. Goda, Y. & Yamada, M. (2012). Application of CoI to design CSCL for EFL online asynchronous discussion (pp.295-316). In Akyol, Z. & Garrison, R. (Eds.), Educational Communities of Inquiry: Theoretical framework, research and practice. IGI Global. DOI: 10.4018/978-1-4666-2110-7.ch014
- I-B-6. 青木久美子, 五十嵐寿江, 合田美子, 齊藤貴浩, 櫻井良樹, 寺田佳子, 仲林清, 平田謙次, 不破泰. (2012). 翻訳 ISO/IEC 19796-1:2005 (英和対訳版) Information technology -- Learning, education and training -- Quality management, assurance and metrics -- Part 1: General approach. 情報技術—学習, 教育及び訓練—品質マネジメント, 保証及び計量法—第 1 部: 一般的アプローチ. 一般財団法人 日本規格協会.
- I-B-7. 青木久美子, 五十嵐寿江, 合田美子, 齊藤貴浩, 櫻井良樹, 寺田佳子, 仲林清, 平田謙次, 不破泰. (2012). 翻訳 .ISO/IEC 19796-3:2009 Information technology -- Learning, education and training -- Quality management, assurance and metrics -- Part 3: Reference methods and metrics. 情報技術—学習, 教育及び訓練—品質マネジメント, 保証及計量法—第 3 部: 参照方法及び計量法. 一般財団法人 日本規格協会.
- I-B-8. [★A] Suzuki, K., & Jung, I. (2011). IDT in Asia (chapter 24) In R. A. Reiser, & J. V. Dempsey (Eds.), Trends and issues in instructional design and technology (3rd Ed.). Pearson Education
- I-B-9. 稲垣忠・鈴木克明 (編) (2011) 『授業設計マニュアル—教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房
- I-B-10. 大森不二雄 (2011) 「ゆとり教育の置き土産—『絶対評価』」 戸瀬信之・西村和雄編 『教育における評価とモラル』東信堂、55—86
- I-B-11. Kimura M., Obari, H., & Goda, Y. (2011). Technologies and Language Learning in Japan: Learn Anywhere, Anytime (pp.38-54), in Levy, M., Blin, F., Siskin, C.B., & Takeuchi, O. (Eds.) WorldCALL: International Perspectives on Computer-Assisted Language Learning. Routledge Studies

- I-B-12. J.M.Keller 著, 鈴木克明 監訳(2010)「学習意欲をデザインする :ARCS モデルによるインストラクショナルデザイン」北大路書房
- I-B-13. 玉木欽也(編著),大沼博靖,齋藤長行,長沼将一,山根信二,石井美穂,合田美子,半田純子,堀内淑子,松田岳士 (2010)『これ一冊でわかる e ラーニング専門家の基本 : ICT・ID・著作権から資格取得準備まで』
- I-B-14. [★C] 大森不二雄 (2010)「英国の高等教育と **Employability**」吉本圭一編『柔軟性と専門性—大学の人材養成課題の日欧比較』(高等教育研究叢書 109)、広島大学高等教育研究開発センター、9-23
- I-B-15. 大森不二雄 (2010)「大学『法人化』の日英比較—NPM の視点から—」米澤彰純編『高等教育の公と私再考』(私学高等教育研究叢書)、日本私立大学協会附置私学高等教育研究所、15-24
- I-B-16. [★C] 大森不二雄 (2010)「学歴社会の再構築と人材の流動化—再チャレンジ可能な知識社会への見取り図」西村和雄・大森不二雄・倉元直樹・木村拓也編『拡大する社会格差に挑む教育』東信堂、93-116
- I-B-17. 大森不二雄 (2010)「高等教育の質保証の方法論としての教授システム学—IM・ID 理論による大学院教育の実質化と学士課程教育の構築」西村和雄・大森不二雄・倉元直樹・木村拓也編『混迷する評価の時代—教育評価を根底から問う』東信堂、159-186
- I-B-18. 渡邊あや (2010)「フィンランド—独立を祝う気持ちが実を結んだ世界の読解力」二宮皓編著『こんなに違う!世界の国語教科書』、メディアファクトリー新書、79-94

I-C.国際会議 [27]件

- I-C-1. [★D] Toshihiro Kita, Tsuyoshi Usagawa and Hiroshi Nakano, "pdf2submission: a Moodle Plugin for Partially Integrating Moodle into Offline Courses Where Handwritten Document Submissions are Required", Moodle Research Conference 2012, Heraklion, Crete, Greece, P4 (Proceedings pp.196-199)
- I-C-2. [★A] Suzuki, K. and Nemoto, J. (August, 2012) Cultural and Social Frameworks of Instructional Design. A paper presented at ICoME 2012 (International Conference on Media in Education), Beijing, China.

- I-C-3. [★D] Matsuba,R., Kubota,S., Miyazaki,M., Nemoto, J., Kita,T., Suzuki, K., Nakano,H.(July,2012) An Implementation of a learning portfolio. ePIC 2012(the 10th ePortfolio and Identity Conference, London), Paper No.133
- I-C-4. Muhammad Wannous, Hiroshi Nakano and Takayuki Nagai, (2012) Virtualization and Nested Virtualization for Constructing a Reproducible Online Laboratory, Proceedings of IEEE EDUCON (The 3rd Annual IEEE Engineering Education Conference) 2012, April 17th-20th, 2012, Ryad Mogador Menara Hotel, Marrakeshm MOROCCO, pp.70-73.
- I-C-5. Takaaki Imamura, Takayuki Nagai and Hiroshi Nakano, (2012) A Simple Eye-Gaze Detecting Function for Touch-Typing Training System, Proceedings of IEEE EDUCON (The 3rd Annual IEEE Engineering Education Conference) 2012, April 17th-20th, 2012, Ryad Mogador Menara Hotel, Marrakeshm MOROCCO, pp.428-432.
- I-C-6. Suzuki, K., Nemoto, J., Unaka, K., Takahashi, A. & Yoshida, A. (November, 2011) Example open courses of Graduate School of Instructional Systems in Kumamoto University. AROOC2011(Meiji University):Paper No.16 (Meiji University Informatics vol.5 No.1:79-82)
- I-C-7. Kita, T., Nemoto, J., Matsuba, R., Honma, R., Kitamura, S. & Suzuki, K. (November, 2011)Weekly luncheon open webinar series for various topics in e-learning and education.AROOC2011(Meiji University):Paper No.13 (Meiji University Informatics vol.5 No.1:61-66)
- I-C-8. [★A] Nemoto, J. & Suzuki, K. (August, 2011) Evaluation of an Online Orientation Course for Online Graduate Students. A paper presented at ICoME 2011 (International Conference on Media in Education), Korea. (Proceedings, p.63)
- I-C-9. Suzuki, K. & Nemoto, J. (August, 2011) A Framework for Institutional Design for e-Learning Promotion: A case of the University of South Pacific. A paper presented at ICoME 2011 (International Conference on Media in Education), Korea. (Proceedings, p.52)
- I-C-10. [★D] R. Matsuba, M. Miyazaki, T.Nagai, (June 14-16, 2011) A Learning Portfolio with Sakai CLE/OSP2 -An Implementation using OSP in Kumamoto University-, 12th Sakai Conference in Los Angles

- I-C-11. [★A] Grabowski, B., Kurtz, G., Jung, I., Beaudoin, M. & Suzuki, K. (2011). Online Learner Competencies: Results of a Worldwide Validation Study. In Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education 2011 (pp. 1929-1935). Chesapeake, VA: AACE. [Available online]
- I-C-12. Hiroshi Nakano, Takayuki Nagai, Jia Yunpeng, Muhammad Wannous and Toshihiro Kita, (2011) Mashup Approach for Embedding Algebraic Manipulations, Formulas and Graphs in Web Pages, Proceedings of IEEE EDUCON (The 2nd Annual IEEE Engineering Education Conference) 2011, April 4th-6th, 2011, Princess Sumaya University of Technology, Amman, JORDAN, pp.691-694.
- I-C-13. Muhammad Wannous, Hiroshi Nakano and Takayuki Nagai, (2011) To Know What They Are Doing in a Web-Based Laboratory, A System For Saving Information on The Learners' Activities Into Sakai's Logs, Proceedings of IEEE EDUCON (The 2nd Annual IEEE Engineering Education Conference) 2011, April 4th-6th, 2011, Princess Sumaya University of Technology, Amman, JORDAN, pp.101-104.
- I-C-14. Muhammad Wannous, Hiroshi Nakano and Takayuki Nagai, (2011) Google Calendar? for managing and monitoring the utilization of a web-based laboratory's resources, Proceedings of IEEE EDUCON (The 2nd Annual IEEE Engineering Education Conference) 2011, April 4th-6th, 2011, Princess Sumaya University of Technology, Amman, JORDAN, pp.210-213.
- I-C-15. [★A] Goda, Y., Yamada, M., Shimonishi, K., & Wakita, S. (2011). Design of Cross-Breeding Diversity Support System for CSCL. IEEE International Conference on Technology for Education, 2011(T4E), pp. 225-228.
- I-C-16. Suzuki, K. (2011, March) Quality Assurance of an Online Graduate Program in Japan: A case of Kumamoto University' s Graduate School of Instructional Systems. A paper presented at Global Learn Asia Pacific 2011, Melbourne, Australia, organized by Association for the Advancement in Computing in Education (AACE).

- I-C-17. [★A] Suzuki, K. (Chair) (2010). Research Trends of Learning and Technology in Japan: A Critical Review of Two Journals by Japanese Society for Information and Systems in Education (JSiSE). An Invited Panel of Global Learn Asia Pacific 2010 (Proceedings, pp. 6-7). AACE.
- I-C-18. Suzuki, K., Mima, N., & Yamauchi, Y. (2010). How can Teaching Practices of Higher Education be improved by ICT? An Ongoing MOE Comparative Research Project of Japan. In Proceedings of Global Learn Asia Pacific 2010 (pp. 657-660). AACE.
- I-C-19. Muhammad Wannous, Hiroshi Nakano and Takayuki Nagai, (2010) Utilization of Virtualization Technology in a Layered Fashion for Constructing an ICT Web-based Laboratory, Proceedings of ICoME2010 (The 8th International Conference on Media in Education 2010), Kumamoto City International Center, Kumamoto, Japan, July 14th-16th, 2010, pp. 399-401.
- I-C-20. Hiroshi Nakano, Kenichi Sugitani, Takayuki Nagai, Shinichiro Kubota, Masahiro Migita, Yasuo Musashi, Norio Iriguchi, Toshihiro KITA, Ryuichi MATSUBA and Tsuyoshi Usagawa, (2010) Web-based Time Schedule System for Multiple LMSs on the SSO/Portal Environment, Proceedings of IEEE EDUCON (The 1st Annual IEEE Engineering Education Conference) 2010, April 14th-16th, 2010, National University of Distance Education and Technical University of Madrid, Madrid, SPAIN, pp.153-158.
- I-C-21. Nemoto, J., Oyamada, M., Shibata, Y., Suzuki, K., (July, 2010). “Learning Sketch”: A Learning Reflection Activity Design. A paper presented at ICoME 2010 (International Conference on Media in Education), Kumamoto, Japan.
- I-C-22. [★A] Suzuki, K., Nemoto, J., Goda, Y., (July, 2010). Research Trends related to Keller’s ARCS Model: A Review of Literature in Japan. A paper presented at ICoME 2010 (International Conference on Media in Education), Kumamoto, Japan.
- I-C-23. [★D] R. Matsuba, M. Miyazaki, S. Kubota,(他2名, 1番目) (June 15-17, 2010), Development for A Learning Portfolio System with Sakai/OSP, On-Line, 11th Sakai Conference in Denver

- I-C-24. Nemoto, J., Kubota, S., Migita, M., Matsuba, R., Kitamura, S., Kita, T. & Suzuki, K. (2010). Design of Authentic Learning: A Challenge in E-learning Specialist Graduate Program. In Proceedings of Global Learn Asia Pacific 2010 (pp. 1237-1242). AACE.
- I-C-25. Muhammad Wannous and Hiroshi Nakano, Supporting the Delivery of Learning-Contents with Laboratory Activities in Sakai, (2010) Proceedings of IEEE EDUCON (The 1st Annual IEEE Engineering Education Conference) 2010, April 14th-16th, 2010, National University of Distance Education and Technical University of Madrid, Madrid, SPAIN, pp.165-169.
- I-C-26. Goda, Y. & Shimonishi, K. (2010). Design and Development of Collaborative Game “Mintuku” for Creativity and Innovation Skills. onference Proceedings of The Eighth Annual Hawaii International Conference on Education, pp.3206-3209, (ISSN#1541-5880)
- I-C-27. [★A] Goda, Y., Yamada, M., Kato, H., Matsuda, T., Saito, Y., & Miyagawa H. (2010). Preliminary Development of Learner Support Prediction Model for e-Learning based on Self-Regulated Learning Factors. Proceedings of International Conference of Education, Research and Innovation (ICERI2010), ISBN: 978-84-614-2439-9, pp.1960-1967.

I-D.国内学会 [76]件

- I-D-1. 根本淳子, 竹岡篤永, 高橋暁子, 柴田喜幸, 鈴木克明 (2013.1.26) 「ストーリー中心型カリキュラムのための学習環境の構築」 日本教育メディア学会ワークショップ (査読有)
- I-D-2. 今村 貴明, 永井 孝幸, 中野 裕司 (2012-12-01) 「視線判定機能によりタッチタイピング練習を支援するツールの開発」, 情報処理学会コンピュータと教育研究会報告 2012-CE-117(5), 熊本大学 (熊本), pp.1-8 (2012)
- I-D-3. [★D] 喜多敏博, 松葉龍一, 中野裕司, 「Moodle グレードブックデータに基づき学習進捗表示サイトを随時更新するプラグインの開発」, SSS2012(情報処理学会 情報教育シンポジウム Summer Symposium in Shizuoka 2012), 三保園ホテル, 静岡, 2012 年 8 月 20-22 日, 情報処理学会シンポジウム論文集, pp.217-219 (2012-08) (査読有) .

- I-D-4. 坂本 瑞穂, 伊澤 睦, 木田 健, 岩永 菜穂子, 河津 秀利, 久保田 真一郎, 永井 孝幸, 松葉 龍一 (2012.12.17-19)「利用者のためのウェブサイトデザイン -公式ウェブサイトと教職員向け情報サイトのシステム統合-」大学 ICT 推進協議会 2012 年度年次大会 (神戸国際会議場)
- I-D-5. 岩永 菜穂子, 松葉 龍一, 永井 孝幸, 中村 直美, 河津 秀利, 坂本 瑞穂, 伊澤 睦, 木田 健, 林 恵里, 谷口 勝紀, 青木 敏裕, 竹本 浩, 野口 緑, 久保田 真一郎, 宇佐川 毅 中野 裕司, 杉谷 賢一 (2012.12.17-19)「熊本大学 公式/教職員 Web サイトリニューアル プロジェクト」大学 ICT 推進協議会 2012 年度年次大会 (神戸国際会議場)
- I-D-6. 谷口 勝紀, 永井 孝幸, 杉谷 賢一, 林 恵里, 松葉 龍一, 河津 秀利, 岩永 菜穂子 (2012.12.17-19)「熊本大学公式 Web サイト更新に伴う認証システムの構築」大学 ICT 推進協議会 2012 年度年次大会 (神戸国際会議場)
- I-D-7. 青木 敏裕, 谷口 勝紀, 永井 孝幸, 杉谷 賢一, 松葉 龍一, 岩永 菜穂子, 後藤 正三, 河津 秀利 (2012.12.17-19)「熊本大学公式 Web サイトリニューアルに伴うセキュリティ監査」大学 ICT 推進協議会 2012 年度年次大会 (神戸国際会議場)
- I-D-8. 中野 裕司, 久保田 真一郎, 松葉 龍一, 杉谷 賢一, 永井 孝幸, 田村 規雄, 八木 玲子 西村 岳史, 中野 淳(2012.12.17-19)「CAS とリバースプロキシを基盤とした学外システムの利用者制限とログ管理」大学 ICT 推進協議会 2012 年度年次大会 (神戸国際会議場)
- I-D-9. 久保田 真一郎, 田村 規雄, 八木 玲子, 西村 岳史, 中野 淳, 松葉 龍一, 中野 裕司 (2012.12.17-19)「情報処理科目におけるオンラインの雑誌記事の活用」大学 ICT 推進協議会 2012 年度年次大会 (神戸国際会議場) H2-3
- I-D-10. 根本淳子・久保田真一郎・高橋暁子・竹岡篤永・鈴木克明 (2012.12.15)「修士課程研究法導入演習科目の支援レベルを高める授業改善 -オンライン学習者のニーズを踏まえて-」日本教育工学会研究報告集 JSET12-5:141-146
- I-D-11. [★D] 中野裕司・本間里見・松葉龍一・久保田真一郎・永井孝幸・喜多敏博・宇佐川毅 (2012.12.15)「カリキュラムマップと連動した e ポートフォリオに求められる要件と実装の検討」日本教育工学会研究報告集 JSET12-5:77-82
- I-D-12. 鈴木克明・根本淳子 (2012.9)「大学教育 ICT 利用サンドイッチモデルの提案-ポートフォリオは応用課題に、LMS は基礎知識に-」日本教育工学会第 28 回全国大会 (長崎大学) 発表論文集 969-970

- I-D-13. 根本淳子・鈴木克明 (2012.9)「FD ワークワークショップ実践報告-デザイン力向上の支援を目指して-」日本教育工学会第 28 回全国大会 (長崎大学) 発表論文集 967-968
- I-D-14. [★D] 井ノ上 憲司・鈴木克明 (2012.9)「jQuery を用いた新しい教員向け LMS インターフェースの開発」日本教育工学会第 28 回全国大会 (長崎大学) 発表論文集 631-632
- I-D-15. [★D] 中野裕司・永井孝幸・久保田 真一郎・松葉龍一・喜多敏博 (2012.9)「e ポートフォリオ時代に適応するオフライン Web アプリ組み込みコンテンツの提案と試行」日本教育工学会第 28 回全国大会 (長崎大学) 発表論文集 667-668
- I-D-16. 合田美子・山田政寛・松田岳士・加藤浩・齋藤裕・宮川裕之 (2012.9)「e ラーニングにおける完了率・満足度と援助要請」日本教育工学会第 28 回全国大会 (長崎大学) 発表論文集 557-558
- I-D-17. [★A] 鈴木克明 (2012) オンライン学習者コンピテンシー標準をどう活用すればよいか. 教育システム情報学会第 37 回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:160-161
- I-D-18. 根本淳子, 竹岡篤永, 井ノ上憲司, 久保田真一郎, 柴田喜幸, 鈴木克明 (2012) オンライン学習の研究活動を支援するコミュニティ形成要因の検討ー大学院の事例をもとにー. 教育システム情報学会第 37 回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:370-371
- I-D-19. [★B] 北村土朗・藤本徹・妹尾堅一郎 (2012.8)「知財人財育成のための講師養成手法の開発と実践」CIEC (コンピュータ利用教育学会) 2012PCConference, pp.341-344
- I-D-20. 鈴木克明 (2012.8)「遠隔教育者を支える同価値理論と交流距離理論」第 19 回教育メディア学会年次大会 (東北学院大学) 発表論文集 27-28
- I-D-21. 合田美子, 山田政寛, 松河秀哉, 畑耕治郎, 安浪誠祐 (2012) ソーシャルラーニングへの適性度基礎調査: CSCL における学習行動と態度の説明要因. 教育システム情報学会第 37 回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:96-97
- I-D-22. [★B] 櫻井良樹, 寺田佳子, 高根祐次, 五十嵐寿恵, 合田美子, 権藤俊彦, 森田晃子 (2012) e ラーニング専門家人材に必要なコンピテンシーの体系再構築ーHPI を包含する役割定義と標準業務プロセスの見直しー. 教育システム情報学会第 37 回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:222-223

- I-D-23. 寺嶋浩介・市川尚・稲垣忠・鈴木克明 (2012.5.19) 「教職科目における[授業設計マニュアル]に基づいた指導上の課題の分析」日本教育工学会研究報告集 JSET12-2、25-28
- I-D-24. 大森不二雄 (2012) 「これからの大学経営—誰がどのような役割を担うのか—」広島大学高等教育研究開発センター編『これからの大学経営～誰がどのような役割を担うのか～』(高等教育研究叢書 118)、広島大学高等教育研究開発センター、97-107
- I-D-25. [★D] 中野裕司, 永井孝幸, 松葉龍一, 喜多敏博, (2012-03) HTML5 を利用したディスカッションの可視化とローカルファイル化の試み, 大学 e ラーニング協議会フォーラム 2011, 熊本大学, 熊本市, 2012 年 3 月 16 日, pp.41-43.
- I-D-26. 大森不二雄 (2012.3.15) 「学習成果に基づく学士課程改革と e ポートフォリオ—地方国立大学の取組事例—」第 18 回大学教育研究フォーラム (京都大学)
- I-D-27. Anang Kunaefi, Takayuki Nagai, Hiroshi Nakano and Riyanarto Sarno, (2012-03) Semantic Web Service Discovery Using Weighted Directed Acyclic Graph, 情報処理学会 第 74 回全国大会講演論文集, 名古屋工業大学, 名古屋市, 2012 年 3 月 6 日, 発表番号: 2P-4, 1 分冊 pp.691-192.
- I-D-28. [★D] 井ノ上憲司・鈴木克明 (2012.3) 「ゲームニクスによる人間中心デザインの教員用 LMS ユーザインタフェースの実装」教育システム情報学会研究報告 26(7), 11-18
- I-D-29. 井ノ上憲司・市川尚・根本淳子・鈴木克明(2012.3) 「ID 基礎力育成 Web サイトのコンセプト検討」『日本教育工学会研究報告集 JSET12-1』337-340
- I-D-30. 渡辺雄貴・大森不二雄 (2012.3) 「学習成果と授業設計をリンクするシラバス作成に関する研究」『日本教育工学会研究報告集 JSET12-1』153-159
- I-D-31. 根本淳子・竹岡篤永・井ノ上憲司・久保田真一郎・柴田喜幸・鈴木克明 (2012.1) 「研究活動を支援するイノベーティブなコミュニティ形成の要因調査」教育システム情報学会研究報告 26(5),75-76
- I-D-32. 根本淳子・朴恵一・北村隆始・鈴木克明 (2011.12) 問題解決型学習デザインの研究動向 —GBS と SCC を中心に—. 日本教育工学会研究論文集 10-5:151-158
- I-D-33. 鈴木克明・根本淳子・鳥中啓子・高橋暁子・吉田あきえ (2011.11) 「オンライン大学院における公開科目提供事例」第 18 回教育メディア学会年次大会 (国際基督教大学) 発表論文集 169-170

- I-D-34. 大森不二雄 (2011.11.18) 「これからの大学経営～誰がどのような役割を担うのか～」 広島大学高等教育研究開発センター第 39 回研究員集会 (広島大学)
- I-D-35. 鈴木克明・根本淳子(2011.10) 「教育設計における社会・文化的配慮についての動向」 日本教育工学会研究報告集 11-4:185-188
- I-D-36. [★D] 喜多敏博・根本淳子・上田公代・宇佐川毅 (2011.10) 「通常教室での授業で LMS を利用するための 2 つの追加機能の開発」 情報処理学会 CLE 研究会 (帝京大学) 2011 年度第 5 回研究会研究報告 CE111CLE5-2
- I-D-37. [★D] 賈雲鵬, 永井孝幸, Muhammad Wannous, 喜多敏博, 中野裕司 (2011.10) Maxima とマッシュアップ技術による SCORM コンテンツ中での数式処理と可視化の試み, 情報処理学会第 4 回 CLE 研究発表会, 帝京大学, 宇都宮市, 2011 年 10 月 13-14 日, 情報処理学会研究会報告, Vol.2011-CLE-4, No.3.
- I-D-38. 久保田真一郎, 中野裕司, 永井孝幸, 杉谷賢一, 松葉龍一, 喜多敏博, 宮崎誠, 宇佐川毅, (2011.9) e ポートフォリオへの学習活動データ統合の検討, 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 2a-204-04, pp.469-470.
- I-D-39. 市川尚, 井ノ上憲司, 根本淳子, 鈴木克明 (2011.9) ID 基礎力養成 Web サイトの初期検討. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:921-922
- I-D-40. 根本淳子, 椿本弥生, 渡辺雄貴, 美馬のゆり, 鈴木克明 (2011.9) 高等教育機関における学習支援アプローチとその役割 米国学習センターの事例から得られたこと. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:865-866
- I-D-41. 鈴木克明, 根本淳子 (2011.9) 米国の大学で用いている学習スキルの教科書に見られる工夫 多様性と個性伸長に関する章を中心に. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:849-850
- I-D-42. 合田美子 (2011.9) 他者と自分のスキーマを掛け合わせた協調学習支援システムの開発と形成的評価. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:459-460
- I-D-43. [★C] 喜多敏博, 根本淳子, 上田公代, 宇佐川毅 (2011.9) 通常教室での授業で Moodle を使うための追加機能の開発 - pdf2submission ブロックと barlogin 認証プラグイン -. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:433-434

- I-D-44. [★D] 井ノ上憲司, 鈴木克明 (2011.9) ゲームニクスによる教員用 LMS インターフェースのペルソナ/シナリオ法による妥当性検討. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:249-250
- I-D-45. 北村土朗・植田清一・深見隆久・橋上実穂 (2011.8) 「PCC を題材として生協学生スタッフ向け PBL」 CIEC (コンピュータ利用教育学会) 2011PCConference,pp.114-115
- I-D-46. 鈴木克明, 根本淳子 (2011) 教育設計における社会・文化的検討についてのフレームワーク. 教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学)発表論文集:232-233
- I-D-47. 根本淳子, 上田勇仁, 上田公代 (2011) グループワークを支援する ICT デザイン -e ラーニングを用いた学習活動支援の統合的評価-. 教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学)発表論文集:384-385
- I-D-48. [★D] 井ノ上憲司, 鈴木克明 (2011) ゲームニクスによる使いやすい LMS インターフェースの実装. 教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学) 発表論文集:116-117
- I-D-49. 中野裕司, 喜多敏博, 北村土朗, 筒井洋一, (2011-08) 熊本大学の教育の情報化と情報教育?ICT 環境整備から e ラーニング, そして総合情報環へー, 2011PC カンファレンス, 熊本大学, 熊本市, 2011 年 8 月 6-8 日, シンポジウム 2(パネリスト), pp.2-3.
- I-D-50. 大森不二雄(2011.6.5)「イギリスにおける大学経営陣向け研修—現状と課題—」大学教育学会第 33 回大会 (桜美林大学)
- I-D-51. 久保田真一郎, 島本勝, 杉谷賢一, 中野裕司, (2011-06) SPICE プロトコルを利用したデスクトップ画面伝送の比較評価, 大学情報システム環境研究, Vol.14, pp.105-110, 査読有
- I-D-52. 鈴木克明 (2011.5) 解説論文「教育設計における 3 つの第一原理をめぐって」をめぐって—ライゲルースからの学びを中心に—【特別講演】. 教育システム情報学会研究報告 26(1), 69-72
[英語版]Suzuki, K. (2011). Around the Review “Around the Birth of three First Principles of Instructional Design” : Reflection on What I Learned from the Works of Reigeluth. Translation of Proceedings of a special presentation for JSiSE research meeting on May 27, 2011, Campus Innovation Center, Tokyo

- I-D-53. 根本淳子, 上田勇仁, 上田公代 (2011.5) グループワークを支援する ICT デザイン -e ラーニングを利用したグループ評価実践報告-. 教育システム情報学会研究報告 26(1), 41-44
- I-D-54. 大森不二雄 (2011.3.18) 「越境する e ラーニング戦略—大学と企業のボーダーレス化、学びと実践の融合—」 第 17 回大学教育研究フォーラム (京都大学)
- I-D-55. 鈴木克明・美馬のゆり・山内祐平 (2011.3) 大学授業の質改善以外の学習支援にどう取り組むか：学習センター関連資格制度についての米国調査報告. 日本教育工学会研究論文集 11-1:181-186
- I-D-56. [★D] 井ノ上憲司・鈴木克明 (2011.3) 「ゲームニクスによる革新的 LMS インターフェースの開発」 教育システム情報学会研究報告
- I-D-57. 大森不二雄 (2010.12.11) “Asian Higher Education Governance and Management in Globalised Knowledge Society” 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「急変する世界環境下での高等教育の国際化に関する総合的研究」 (研究代表者：米澤彰純) 国際セミナー (上智大学)
- I-D-58. 大森不二雄 (2010.12.11) “Academic Profession, Academic Units, University, Government and Market in Globalised Knowledge Society” 科学研究費補助金 基盤研究(B) 「急変する世界環境下での高等教育の国際化に関する総合的研究」 (研究代表者：米澤彰純) 国際セミナー (上智大学)
- I-D-59. 中野裕司, 永井孝幸, Muhammad Wannous, (2010) Web アプリケーション作品共有機能の実現 -JSP 入門授業の事例-, 平成 22 年度情報教育研究集会, 京都テルサ, 京都府, 2010 年 12 月 10-11 日, PT-16, 4 pages.
- I-D-60. 烏中啓子・根本淳子・徳村朝昭・鈴木克明 (2010.12) 国際協力における教育設計専門家養成の取り組み—改善に向けた初年度実施アンケート分析—. 日本教育工学会研究論文集 10-5:79-84
- I-D-61. 大森不二雄 (2010.11.20) 「英国のアカデミック・リーダーシップ～リーダーシップ・ファウンデーションの文献より～」 科学研究費補助金 基盤研究(B) 「大学経営高度化を実現するアカデミック・リーダーシップ形成・継承・発展に関する研究」 (研究代表者：夏目達也) 研究会 (名古屋大学)
- I-D-62. 合田美子・山田政寛・松田岳士・加藤浩・齋藤裕・宮川裕之(2010.9) 「e ラーニングにおける自己調整学習の 4 要因」 日本教育工学会第 26 回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 407-408

- I-D-63. 根本淳子・鈴木克明(2010.9) 「オンライン大学院による実践演習科目の改善とデザイン原則」日本教育工学会第 26 回全国大会(金城学院大学)発表論文集 63-66
- I-D-64. 久保田真一郎・杉谷賢一・入口紀男・喜多敏博・北村士朗・武藏泰雄・松葉龍二・永井孝幸・右田雅裕・中野裕司(2010.9) 「公開型自己モニタリングを利用したオンライン講義の実践」日本教育工学会第 26 回全国大会(金城学院大学)発表論文集 791-792
- I-D-65. [★A] 鈴木克明・根本淳子・合田美子・コザルカティファニー(2010.9) 「インストラクショナルデザイン専門家職能に関する調査」日本教育工学会第 26 回全国大会(金城学院大学)発表論文集 625-626
- I-D-66. 【2010 年度研究奨励賞】合田美子・畑耕治郎(2010.8) 「e ラーニングの完了率および満足度における学習スタイルの影響」教育システム情報学会第 35 回全国大会(北海道大学)発表論文集 25-26
- I-D-67. 中野裕司・賈雲鵬・Muhammad Wannous・永井孝幸・喜多敏博(2010.8) 「数式の処理と表示のマッシュアップを実現する Maxima 活用システムの開発」教育システム情報学会第 35 回全国大会(北海道大学)発表論文集 381-382
- I-D-68. 根本淳子・鈴木克明(2010.8) 『オンラインでの学びを準備するオンライン・オリエンテーションの分析—「学習者個人に関わる要因」4 要素を用いて—』教育システム情報学会第 35 回全国大会(北海道大学)発表論文集 95-97
- I-D-69. 鈴木克明・根本淳子・合田美子(2010.8) 「我が国における ARCS モデルを巡る研究動向」教育システム情報学会第 35 回全国大会(北海道大学)発表論文集 99-100
- I-D-70. 大森不二雄 (2010.7.31) 「大学院における Employability の育成～問題意識の所在～」科学研究費補助金 基盤研究(B) 「大学院におけるエンプロイアビリティの育成に関する国際比較研究」(研究代表者：大森不二雄) 第 1 回研究会(筑波大学東京キャンパス)
- I-D-71. 鈴木克明(2010.7) 「ARCS モデルから ARCS-V モデルへ」第 17 回日本教育メディア学会年次大会(熊本市国際交流会館)発表論文集 115-116
- I-D-72. 野田侑嗣, 永井孝幸, 中野裕司, (2010) テンプレートマッチングによる講義スライド等からの文字情報自動抽出の試み, 電子情報通信学会 ET 研究会, 名古屋工業大学, 愛知県, 2010 年 6 月 19 日, (信学技報, vol. 110, no. 85, ET2010-15), pp. 49-54.

- I-D-73. 龍弘大, 近藤雄貴, 永井孝幸, 中野裕司, (2010) 検索結果を題材とする多言語対応タイピングツールの開発, 電子情報通信学会 ET 研究会, 名古屋工業大学, 愛知県, 2010年6月19日, (信学技報, vol. 110, no. 85, ET2010-8), pp. 37-42.
- I-D-74. 丸山大輔, 永井孝幸, 中野裕司, (2010) 講義ビデオにおける肖像権保護のための顔情報保護手法の提案, 電子情報通信学会 ET 研究会, 名古屋工業大学, 愛知県, 2010年6月19日, (信学技報, vol. 110, no. 85, ET2010-15), pp. 7-12.
- I-D-75. Muhammad Wannous, Hiroshi Nakano and Takayuki Nagai, (2010) How to Link an ICT Web-based Laboratory With Sakai CLE, Technical Issues, 情報処理学会第1回 CLE 研究発表会, 放送大学, 千葉県, 2010年5月14-15日, 情報処理学会研究報告 Vol.2010-CLE-1, No.4, pp. 1-4.
- I-D-76. 新目真紀 半田純子 合田美子 長沼将一. (2010). eポートフォリオを活用した授業における多段階の振り返りの学習効果の考察. 情報処理学会 情報教育シンポジウム論文集, pp. 127-131 (査読付)

I-E.招待講演 [116]件

<研究 [31]件>

- I-E-1. 鈴木克明 「特別講演1：医療者教育へのISD活用の可能性」招待講演 第5回 日本医療教授システム学会総会 (2013.3.7 学術総合センター)
- I-E-2. 鈴木克明 「RTD1：医療者教育にISDを取り入れよう」アドバイザー 第5回 日本医療教授システム学会総会 (2013.3.7 学術総合センター)
- I-E-3. 鈴木克明・根本淳子 「大学授業デザインの方法 -1 コマの授業からシラバスまで-」講師 日本教育工学会主催『大学教員のためのFD研修会』(2013.2.18 首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス)
- I-E-4. 根本淳子・竹岡篤永・高橋暁子・柴田喜幸・鈴木克明 (2013.1.26) ストーリー中心型カリキュラムのための学習環境の構築. 日本教育メディア学会「学習科学と教育メディア研究の接点を探る」ワークショップ (内田洋行)
- I-E-5. 鈴木克明 「インストラクショナル・デザイン的ものの見方」パネリスト・「専門学校と大学における技術者育成の現状と課題」パネル討論座長、『第21回SEA新春教育フォーラム2013：専門技術者育成における専門学校の役割と展望』(2013.1.25 キャンパスイノベーションセンター東京)

- I-E-6. 鈴木克明 「ISD/教育・研修の実践を論文にする事例研究会」ファシリテータ、日本医療教授システム学会（2012.12.1、2012.12.22、2013.1.19 東京慈恵会医科大学）
- I-E-7. 鈴木克明 「これからの教育メディアと学びのデザイン(2者対談)」日本メディア学会年次大会 特別対話(2012.8.31 東北学院大学)
- I-E-8. 鈴木克明 「これからの大学に求められる学習環境の整備はどうあるべきか」日本リメディアル教育学会第8回全国大会シンポジウム招待講演「学習支援のための環境づくり」(2012.8.28 立命館大学)
- I-E-9. 鈴木克明 「教育・研修実践を論文にまとめる」セミナー講師 日本医療教授システム学会（2012.8.16 東京慈恵会医科大学）
- I-E-10. 鈴木克明 「ISD&ARCS セミナー」講師および通訳（John Keller）日本医療教授システム学会（2012.8.11-12 科学技術館）
- I-E-11. 鈴木克明 「ジョン・M・ケラー『教育講演I：看護学教育に活かすARCS動機づけモデル』」座長および通訳、日本看護学教育学会第22回学術集会（2012.8.4 熊本県立劇場）
- I-E-12. 鈴木克明（登壇者）「教育鼎談：キャリアを育む看護学教育に活かすARCS動機づけモデル」講師、日本看護学教育学会第22回学術集会（2012.8.4 熊本県立劇場）
- I-E-13. 鈴木克明（指定討論者）「高等教育とICT(指定討論者)」日本教育工学会 高等教育シンポジウム(2012.6.16 東京工業大学)
- I-E-14. 鈴木克明・根本淳子「大学授業デザインの方法-1 コマの授業からシラバスまで-」大学教員のためのFD研修会（ワークショップ）（主催：日本教育工学会）（2012.2.20 関西大学東京センター）
- I-E-15. Goda, Y. (2012, 2. 16). Formative Assessment and Support for Students' Self-Regulated Learning in e-Learning. Center of ICT and Education (CODE) The Open University of Japan, International Symposium 2012, Student Assessment in Distance Learning and e-Learning.
- I-E-16. 鈴木克明、パネル討論「授業設計マニュアルの企業向けバージョン」第20回SEA新春フォーラム（2012.1.20）<http://www.ustream.tv/channel/sea2012>
- I-E-17. 鈴木克明 「eラーニングとインストラクショナルデザイン (ID)」eラーニング高等教育連携 (eHELP) 全体会議、招待講演（2012.1.6 東京）

- I-E-18. 鈴木克明「シナリオを重視した学習コンテンツデザイン：ゴールベースシナリオ（GBS）理論からストーリー中心型カリキュラム（SCC）へ」BEAT セミナー第2回「楽しさと学びを融合するシナリオデザイン」講演2（2011.9.3 東京大学福武ホール）
- I-E-19. 大森不二雄, 中野裕司, (2011-08) 大学教育の学習成果とeポートフォリオ, 教育システム情報学会第36回全国大会, ワークショップ WS6 (オーガナイザ), 広島市立大学, 広島, 2011年8月31-9月2日, p.7.
- I-E-20. 中野裕司, 松葉龍一, (2011-08) グローバルな視点から「eポートフォリオの世界的動向」, 教育システム情報学会第36回全国大会, ワークショップ WS6 (講演発表), 広島市立大学, 広島, 2011年8月31-9月2日, p.7.
- I-E-21. 北村土朗(2011.8)「熊本大学の教育の情報化と情報教育-ICT環境整備からeラーニング, そして総合情報環へ」CIEC (コンピュータ利用教育学会) 2011PCConference(シンポジウム2)
- I-E-22. 北村土朗(2011.8)「マイケル・サンデル教授「白熱教室」のスタイルを検討するー講義形式の限界と可能性の再確認ー」CIEC (コンピュータ利用教育学会) 2011PCConference(セミナー3)
- I-E-23. Suzuki, K. (2011). Enhancing teaching practices for primary education by child centered approach. A Keynote Address presented at 2011 Joint Seminar on Enhancement of teaching practices for Primary School, jointly organized by JICA Project for Strengthening the Child Centered Approach (Phase 2) and Pyinnya Tazaung Association, August 13-14, 2011, Yangon, Myanmar
- I-E-24. 渡邊あや「フィンランドにおける大学院レベルでの教員養成・研修」日本比較教育学会第47回大会公開シンポジウム『大学院レベルでの教員養成・研修の国際比較』（2011.6.26 早稲田大学国際会議場井深大記念ホール）
- I-E-25. 鈴木克明「ISD&ARCS セミナー」講師および通訳 (John Keller)、日本医療教授システム学会 (2011.6.11-12 科学技術館)
- I-E-26. 鈴木克明「eラーニングを次のステージへ： つくる、運営する、評価する」第5回医療系大学eラーニング全国交流会 基調講演 (2011.1.29. 産業医科大)
- I-E-27. 渡邊あや「学びをめぐる変化はPISAの結果に影響を与えるのか」CRETシンポジウム『研究者によるPISA2009レビュー～日本の教育はPISAとどう向き合うか』（2010.12.10 国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室）

- I-E-28. 鈴木克明「学習力アップのための e ラーニングデザイン」講演（主催：NUA 学術情報システム研究会）（2010.12.3 福岡大学）
- I-E-29. 北村士朗（2010.11）「実践型マネジメント教育の取り組みと成果について - 熊本大学生協における“もしドラゼミ”の試み -」北村士朗・深見隆久 CIEC（コンピュータ利用教育学会） 2010 九州 PC カンファレンス in 長崎大学
- I-E-30. 中野裕司, (2010) 熊本大学総合情報環構想 2010, サイエнтиフィック・システム研究会教育環境分科会 2010 年度第 2 回会合 懇談会「近未来の情報化キャンパス像」, ANA クラウンプラザホテル神戸, 兵庫県, 2010 年 10 月 20 日.
- I-E-31. 中野裕司, (2010) 熊本大学総合情報環構想と e ラーニング推進の取り組み, 情報処理学会第 29 回九州支部総会特別講演会, 熊本大学, 熊本県, 2010 年 5 月 14 日.

<教育 [85]件>

- I-E-32. 北村士朗（2013.2.4）「研修成果を業務につなげるために」福岡県市町村職員研修所特別講演
- I-E-33. 鈴木克明・柴田善幸（2013.1.29）日本能率協会社内研修会講師
- I-E-34. 北村士朗（2013.1.29）「動機付けの作戦を考える」九州中央リハビリテーション学院 F D 研修会
- I-E-35. 北村士朗、中原淳（2013.01.13）「2012 年度人を育てる科学セミナー企業内人材育成『入門』～業績向上の手段としての若手育成～ダイヤモンド社主催セミナー
- I-E-36. 鈴木克明（2012.12.25）「学びを促す研修をいかにデザインするか（第一部）」産業能率大学総合研究所兼任講師年末学習会（産能大学代官山キャンパス）
- I-E-37. 鈴木克明（2012.12.14）「大学における授業デザインと評価～シラバスの書き方から授業改善まで～」平成 24 年度鳥取大学 FD 講演会
- I-E-38. 鈴木克明（2012.12.10）「組織として教育成果をあげるための授業とカリキュラムのデザイン」平成 24 年度広島大学全学 FD「授業方法研修会」（広島大学）
- I-E-39. 鈴木克明（2012.12.3）「講演：高校情報教育での「インストラクショナルデザインの原理」の活用」山口県高校情報研究大会（山口県セミナーパーク）
- I-E-40. 鈴木克明（2012.11.30）平成 25 年度 NHK 高校通信教育委員会助言者

- I-E-41. 鈴木克明 (2012.11.29) 「インストラクショナルデザインに基づいた授業デザインの方 策」平成 24 年度首都大学東京 F D セミナー「学生の自主的学習を促す授業デザイン」
- I-E-42. 鈴木克明 (2012.11.28) 「e - ラーニング専門家への道 ～ 熊本大学大学院 教授システム学専攻の取り組みと実績」e-Learning Awards 2012 フォーラム・アカデミックセミナー (秋葉原 UDX)
- I-E-43. 北村士朗 (2012.11.19,2012.11.22) 「大学アドミニストレーターののための問題対処と課題設定の思考基盤能力育成講座」熊本大学係長研修
- I-E-44. 鈴木克明 「教育設計の原理－医学教育への実践的応用－」セミナー招待講演者、第 46 回医学教育セミナーとワークショップ (岐阜大学医学教育開発研究センター主催) (2012.10.27 岐阜大学サテライトキャンパス)
- I-E-45. 北村士朗、森田敏子、増山純二、清水將統 (2012.10.27-28) 「看護職教育研修の企画力を磨くワークショップ 2011—インストラクショナルデザインを活かした研修企画力を磨く！—」熊本大学公開講座
- I-E-46. 池上敬一・鈴木克明・松本尚浩・紙谷あゆ美 「WS-2 インストラクショナル・システムズ・デザイン (ISD) による授業・実習改善ワークショップ」ファシリテータ、第 46 回医学教育セミナーとワークショップ (岐阜大学医学教育開発研究センター主催) (2012.10. 27－28 岐阜大学サテライトキャンパス)
- I-E-47. 北村士朗 (2012.10.26) 「農林水産関係 若手研究者研修(アクションプラン作成ワークショップ)」農林水産省主催研修
- I-E-48. 北村士朗 (2012.9.6-2013.1.25) 「N T T グループ次世代幹部候補育成研修」日本電信電話株式会社主催研修
- I-E-49. 北村士朗 (2012.8.29) 「高知大学 O J T 研修」高知大学主催研修
- I-E-50. 鈴木克明 「FD セミナー」講師 獨協医科大学看護学部研修会 (2012.8.26 セミナーハウス日光泊晃陽苑)
- I-E-51. 鈴木克明 「大阪学院大学 ICT セミナー」解説および通訳 (John Keller)、大阪学院大学 (2012.8.5 大阪学院大学)
- I-E-52. 鈴木克明 「愛媛大学公開シンポジウム 基調講演 1 『組織として教育成果をあげるための 授業とカリキュラムのデザイン』」講師、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 (教職員能力開発拠点) (2012.8.1 愛媛大学)

- I-E-53. 鈴木克明「愛媛大学公開シンポジウム 基調講演 2: ジョン・M・ケラー『最大の学習効果 を発揮するための授業デザイン (ARCSモデルとその実践)』」 通 訊、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)(2012.8.1 愛媛大学)
- I-E-54. 北村士朗(2012.7.20)「「自発性を育む実習」を考える～自ら考え行動させるた めのヒント～」板橋中央看護専門学校学習会
- I-E-55. 北村士朗(2012.7.09-10)「研修プランナー養成研修(研修設計)」福岡県市町村 職員研修所主催研修
- I-E-56. 北村士朗、妹尾堅一郎(2012.7.06-07)「創発思考プログラム」日本私立大学連 盟主催研修
- I-E-57. 北村士朗(2012.6.15-7.27)「発想学入門(基礎)」【ワークショップ】～各種の 「発想」支援ツールを学ぶ～、IPBA 知財ビジネスアカデミー(日本弁理士会主 催)
- I-E-58. 北村士朗(2012.06.22)「農林水産関係 中堅研究者研修(アクションプラン作成 ワークショップ)」農林水産省主催研修
- I-E-59. 北村士朗(2012.4.23)「教育・研修サービスを考えるための理論・モデル～」 東京海上日動HRA研修会
- I-E-60. 鈴木克明「これからの大学に求められる学習環境の設計術」日本サイバー教育 研究所・ソフトバンクテレコム主催 次世代 e-Learning セミナー講演(2012.4.19 東京ステーションコンファレンス)
- I-E-61. 北村士朗(2012.3.12)「消防大学校 新任教官科(第4期)教育技法Ⅲ」,消防 大学校
- I-E-62. 北村士朗(2012.3.2)「農林水産関係 地方研修(アクションプラン作成ワークシ ョップ)」農林水産省主催研修
- I-E-63. 鈴木克明「学生のモチベーションを高めるためには:学生のやる気を引き出す 授業設計—ARCS モデル活用法演習—」全学 FD 研修 2011 (2012.2.15/3.5 北 九州市立大学)
- I-E-64. 鈴木克明「自律的学習のためのインストラクショナルデザインとは」セミナー 講師(2012.1.23 北陸先端科学技術大学院大学大学院教育イニシアティブセン ター)

- I-E-65. 鈴木克明「教育設計の美学～もっと学びたくなり、忘れられない e ラーニングへの指針～」e-Learning New Year Meeting 2012 新春セミナー講師（主催：日本イーラーニングコンソシアム）（2012.1.19 望月印刷株式会社）
- I-E-66. 中野裕司, (2011-12) eポートフォリオがもたらす ICT 活用教育 — 教授者(科目)中心から学習者中心へ —, 法政大学第7回FDフォーラム(依頼講演), 法政大学市ヶ谷キャンパス, 東京都, 2011年12月10日.
- I-E-67. 根本淳子「初年次教育におけるインストラクショナルデザイン実践編」2011年度初年次教育セミナー（第11回）（2011.11.29 広島修道大学）
- I-E-68. 鈴木克明 国際シンポジウム「今後の教員養成と現職教育のあり方を考える」指定討論者, 日本女子大学教職教育開発センター主催（2011.11.28 日本女子大学）
- I-E-69. 合田美子. (2011, 11.26). 講演2：オンライン学習における自己調整学習スキル. 流通科学大学, 教養センターシンポジウム(流通科学大学 2111 教室)
- I-E-70. 北村土朗、藤本徹、妹尾堅一郎（2011.11.12-12.17）「知財関連の研修・授業の講師育成講座（基礎）【ワークショップ】＜知財マネジメント編＞」～経営系の初学者に知財マネジメントの重要性を学ばせる～、I PBA 知財ビジネスアカデミー（日本弁理士会主催）
- I-E-71. 北村土朗（2011.12.16）「農林水産関係 中堅研究者研修(アクションプラン作成ワークショップ)」農林水産省主催研修
- I-E-72. 北村土朗（2011.11.12-12.17）「OJT の再構築 -OJT を3つのモードで考察する-」人材育成マネジメント研究会 シリーズ分科会
- I-E-73. 北村土朗、森田敏子、増山純二（2011.11.19-20）「看護職教育研修の企画力を磨くワークショップ 2011—インストラクショナルデザインを活かした教育研修や職場の学び—」熊本大学公開講座
- I-E-74. 北村土朗、中原淳（2011.11.14）「2011人を育てる科学セミナー企業内人材育成『入門』ダイヤモンド社主催セミナー
- I-E-75. 鈴木克明「初年次教育におけるインストラクショナルデザイン理論編」2011年度初年次教育セミナー（第10回）（2011.11.8 広島修道大学）
- I-E-76. 鈴木克明「Instructional Design による教育支援」急性・重症患者看護専門看護師スキルアップセミナー（主催：日本専門看護師協議会）（2011.10.16 聖路加看護大学）

- I-E-77. 北村士朗 (2011.10.14-10.15) 「コンセプトワークトレーニング」音羽電機株式会社主催研修
- I-E-78. 北村士朗 (2011) 九州地区国立大学法人等係長研修
- I-E-79. 鈴木克明・早川勝夫 「理論に基づく企業内人材開発 (インストラクショナルデザイン他)」〔第4期〕人材開発ワークショップ特別講師 (主催: 日本能率協会) (2011.10.14-15 軽井沢プリンスホテル)
- I-E-80. 鈴木克明 「学習力アップを目指した e ラーニングデザイン」第9回ポートフォリオ・LMS の先端事例研究セミナーin 京都 (主催: 朝日ネット) (2011.10.7 京都全日空ホテル)
- I-E-81. 鈴木克明 「e-learning の課題と展望: これまでの取り組みを振り返って」話題提供者 (2011.9.16 日本放送協会出版)
- I-E-82. 北村士朗 (2011.9.10) 「プレゼンテーションワークショップ」大学図書館問題研究会福岡支部月例会
- I-E-83. 鈴木克明 「学習意欲をデザインするーARCS モデル活用法演習ー」平成23年度FD・SD サマーワークショップアクティブラーニング講座3C (2011.9.5 長崎大学大学教育機能開発センター)
- I-E-84. 鈴木克明 「インストラクショナルデザインの視点に立ったポートフォリオの教育的意義」講演、茨城大学大学教育センターFD2011: e ポートフォリオの導入と今後の展開 ~ポートフォリオの教育的意義~ (2011.8.3 茨城大学)
- I-E-85. 合田美子. (2011, 7.22).基調講演: 魅力的な学びをデザインする. e ラーニングコンテンツ開発セミナー(大手前大学).
- I-E-86. 鈴木克明 「インストラクショナルデザイン (教授法) の基礎」CoSTEP: モジュール4/学習と表現の手法(2011.7.20 北海道大学)
- I-E-87. 北村士朗 (2011.7.17) 「農林水産関係 若手研究者研修(アクションプラン作成ワークショップ)」農林水産省主催研修
- I-E-88. 北村士朗 (2011.7.14-15) 「研修プランナー養成研修(研修設計)」福岡県市町村職員研修所主催研修
- I-E-89. 北村士朗 (2011.6.19) 「プレゼンテーション研修」大学図書館問題研究会福岡支部月例会

- I-E-90. 入口紀男、中野裕司、杉谷賢一、宇佐川毅、喜多敏博、武藏泰雄、永井孝幸、松葉龍一、北村士朗、右田雅裕、久保田真一郎（2011-05-30）熊本大学特別表彰(教育活動表彰)「eラーニングシステム及び KU:TO 等の全学の教育活動における ICT 活用環境を整備、また、長年にわたる全学の情報基礎教育に貢献」
- I-E-91. 鈴木克明・根本淳子「ライゲルース講演：The Future of Instructional Theory I D理論の行方」通訳・解説（主催：熊本大学教授システム学専攻）（2011.5.29 立命館大学）
- I-E-92. 妹尾堅一郎、北村士朗（2011.5.14-15）「創発思考プログラム」日本私立大学連盟主催研修
- I-E-93. 北村士朗（2011.3.11）「消防大学校 新任教官科（第4期）教育技法Ⅲ」,消防大学校
- I-E-94. 鈴木克明「インストラクショナルデザインの視点に立ったポートフォリオの教育的意義」講演（主催：長崎大学大学教育機能開発センター）（2011.3.8 長崎新聞文化ホール）
- I-E-95. 中野裕司, (2011) 熊本大学でのeポートフォリオ戦略と国内外の動向, 長崎大学大学教育機能開発センターシンポジウム, パネリスト報告, 長崎大学, 長崎県, 2011年3月8日.
- I-E-96. 鈴木克明・根本淳子・合田美子「Track A：インストラクショナルデザイン世界標準の動向（1）ibstpiID コンピテンシー改訂の概要（2）ibstpi オンライン学習者コンピテンシー策定の概要」 eラーニングカンファレンス Winter、日本イーラーニングコンソシアム（2010.12.6 Learning Square 新橋）
- I-E-97. 北村士朗（2010.11.20-21）「看護職教育研修の企画力を磨くワークショップ 2010-人材確保促進法下の教育研修を考える」熊本大学公開講座
- I-E-98. 鈴木克明「魅力的な教育の実現 インストラクショナルデザインとラーニングコミュニティ」講演（2010.11.12 大手前大学）
- I-E-99. 鈴木克明「インストラクショナルデザインと大学教育」講演（2010.11.11 九州大学（伊都地区））
- I-E-100. 北村士朗、藤本徹、妹尾堅一郎（2010.10.30-12.11）「知財関連の研修・授業の講師育成講座（基礎）【ワークショップ】＜知財マネジメント編＞」～経営系の初学者に知財マネジメントの重要性を学ばせる～、IPBA 知財ビジネスアカデミー（日本弁理士会主催）

- I-E-101. 北村士朗 (2010.10.29-12.10) 「知的基盤能力向上(3)発想学入門(基礎)【ワークショップ】」 IPBA 知財ビジネスアカデミー (日本弁理士会主催) 妹尾堅一郎東大特任教授と共同講師
- I-E-102. 北村士朗 (2010.10.25-26) 「研修プランナー養成研修(研修設計)」福岡県市町村職員研修所主催研修
- I-E-103. 鈴木克明 「インストラクショナルデザインと教育実践」講演 (2010.10.23 熊本学園大学)
- I-E-104. 鈴木克明 「自分のために学ぶ人を育てるプロになる：学習環境設計と自己主導学習」○人会講師 (2010.10.20 日本 CHO 協会)
- I-E-105. 鈴木克明 「教職協働の基礎としてのインストラクショナルデザイン」第8回SDフォーラム分科会A講師 (2010.10.17 大学コンソシアム京都)
- I-E-106. 妹尾堅一郎、北村士朗 (2010.10.8) 「知的基盤能力向上(3)発想学入門(基礎)【セミナー】」 IPBA 知財ビジネスアカデミー (日本弁理士会主催)
- I-E-107. 鈴木克明、放送大学 FD セミナー講演 (2010.9.21 放送大学)
- I-E-108. 北村士朗 (2010.9.10) 「企業における人材育成の理論と実践」株式会社アルク教育者主催 グローバル人材育成研修担当者交流会
- I-E-109. 北村士朗 (2010.09.08) 「『できる人への近道』～ワークプレイスラーニングのすすめ～」熊本大学学生部キャリア支援課主催 第2回卒業生ビジネス交流会
- I-E-110. 北村士朗 (2010.09.07) 「熊本大学の意味 熊本大学で働く意味」熊本大学平成22年度新採用内定職員研修
- I-E-111. 北村士朗 (2010.9.1-10.1) 「プレゼンテーションワークショップ」熊本大学図書館職員研修
- I-E-112. 鈴木克明 「学生のモチベーションを高めるためには」全学 FD 研修講師 (2010.8.25 北九州市立大学)
- I-E-113. 鈴木克明・根本淳子・ジョンケラー 「Track A : eラーニングの魅力を高めるインストラクショナルデザイナー-ARCS モデルの提唱者ジョン・ケラー博士を迎えて-」 eラーニングカンファレンス Summer、日本イーラーニングコンソシアム (2010.7.28 東京ビッグサイト)
- I-E-114. 北村士朗、中原淳 (2010.7.16) 「2010 人を育てる科学セミナー企業内人材育成『入門』～OJT 維新職場における能力開発～」ダイヤモンド社主催セミナー

- I-E-115. 妹尾堅一郎、北村士朗 (2010.5.14-15) 「創発思考プログラム」日本私立大学連盟主催研修
- I-E-116. 北村士朗 (2010.04.15) 「職場でのオトナの学び」熊本県教育庁主催 熊本県初任者研修指導教員連絡協議会

I-F.外部資金 [15]件

- I-F-1. 都竹茂樹 (主任研究者) 平成 24 年度 科研費基盤研究 (C) (研究課題番号: 24501194)
e ラーニング学習管理システム (LMS) によるメタボリック症候群向け保健指導の開発
2012 年度: 1820 千円
- I-F-2. 中野裕司 平成 24 年度 寄附金(西日本電信電話株式会社)
予算番号 200-31700003
500 千円
- I-F-3. 中野裕司、久保田真一、松葉龍一
平成 24 年度 産学連携受託研究(日経 B P 株式会社)「クラウドを活用した情報教育に関する研究」
予算番号 300-31802004
200 千円
- I-F-4. 中野裕司(研究代表者) 基盤研究(C) 平成 24-26 年度(研究課題番号:24501195)
「クラウド化とパーソナル化による数式処理サービスの Web 汎用化」
総額: 3176 千円 (2012 年度: 2210 千円、2013 年度: 1690 千円、2014 年度: 1300 千円)
- I-F-5. [★B] 鈴木克明 (研究分担者) 平成 24 年度 厚生労働科学研究費補助金
地域医療基盤開発推進研究事業「医療の質・安全の向上をめざしたシミュレーション教育・研修システムの開発および遠隔教育への応用についての研究」研究班 (研究代表者 井田雅祥@虎の門病院シミュレーション・ラボセンター)

- I-F-6. 鈴木克明 (研究分担者)、根本淳子 (研究分担者) 平成 24-26 年度 学術振興会
科学研究費補助金
基盤研究 (B) 課題番号 : 24300287 「ピアチュータリングを取り入れた高等教育における統合型学習支援システムの開発」 (研究代表者 美馬のゆり@はこだて未来大学)
総額 : 7930 千円
- I-F-7. 中野裕司 (研究分担者)、鈴木克明 (研究分担者) 平成 24-26 年度 学術振興会
科学研究費補助金
基盤研究 (C) 課題番号 : 24501225 「ID で教員の e ラーニング実践と継続を動機づける支援フレームワーク構築の研究」 (研究代表者 中嶋康二@大阪学院大学)
- I-F-8. 根本淳子 (研究代表者) 若手研究(B) 平成 24~25 年度 (研究課題番号:12016963)
「リフレクション活動の深化を目指した「学びのスケッチ」ツールの高度化」
総額 : 3176 千円 (2012 年度 : 1418 千円、2013 年度 : 1758 千円)
- I-F-9. [★C] 大森不二雄 (研究代表者) 平成 22-24 年度 科学研究費補助金
基盤研究(B)「大学院におけるエンプロイアビリティの育成に関する国際比較研究」 (課題番号 : 22330232)
総額 : 9,620 千円、平成 22 年度交付決定額 3,640 千円、平成 23 年度交付決定額 3,120 千円、平成 24 年度交付決定額 2,860 千円
- I-F-10. 大森不二雄 (研究分担者) 平成 22-24 年度 科学研究費補助金
基盤研究(B)「大学経営高度化を実現するアカデミック・リーダーシップ形成・継承・発展に関する研究」 (研究代表者 : 夏目達也、課題番号 : 22330213)
総額 : 18,200 千円、平成 22 年度交付決定額 650 千円 (分担金)、平成 23 年度交付決定額 520 千円 (分担金)
- I-F-11. 大森不二雄 (研究分担者) 平成 22-24 年度 科学研究費補助金
基盤研究(B)「急変する世界環境下での高等教育の国際化に関する総合的研究」 (研究代表者 : 米澤彰純、課題番号 : 22330226)
総額 : 18,200 千円、平成 22 年度交付決定額 260 千円 (分担金)、平成 23 年度交付決定額 780 千円 (分担金)

- I-F-12. 根本淳子 (研究代表者) (放送文化基金) 助成・援助金
 期間：平成 22 年度
 課題：「研究活動を支援するイノベーティブなコミュニティ形成の要因に関する研究」
 金額 (平成 22 年度)：直接経費 500,000 円 (間接経費なし)
- I-F-13. 中野裕司 (研究代表者) (分担者：喜多敏博)
 基盤研究(C) 平成 21-23 年度 (研究課題番号：21500946)
 「コンテクストアウェアなシミュレーション教材オーサリングツールの開発」
 総額：4420 千円 (2009 年度：2080 千円、2010 年度：1430 千円、2011 年度：910 千円)
- I-F-14. 喜多敏博 (研究代表者) 基盤研究(C) 平成 21-23 年度 (研究課題番号:21500947)
 「国際標準規格に完全準拠した e ラーニングプラットフォームのオープンソースによる構築」
 総額：4290 千円 (2009 年度：1040 千円、2010 年度：2210 千円、2011 年度：1040 千円)
- I-F-15. 鈴木克明 (研究分担者) 平成 21-23 年度 科学研究費
 基盤研究 (B) 課題番号：21300314 「初等・中等・高等教育における教育方法の改善・開発に関する総合的研究」大学班 (研究代表者：吉崎静夫@日本女子大学)
 総額：19240 千円

I-G.その他 [52]件

- I-G-1. Hiroshi Nakano, Program Committee, ICETA2012 (Information and Communication Technologies in Learning), November 8-9, 2012, Stara Lesna, The High Tatras, Slovakia.
- I-G-2. 鈴木克明、国際協力機構 (JICA) ICT キャパシティビルディングプロジェクト 短期専門家 (派遣番号：B0800434143) (2012.10.29-11.9 南太平洋大学：フィジー共和国スバ市)
- I-G-3. 中野裕司 (2012) 情報処理学会 第 8 回 CLE 研究会 実行委員, 九州大学, 福岡, 2012 年 11 月 2-3 日.
- I-G-4. 鈴木克明、国際協力機構 (JICA) トルコ中央アジア・中東向け自動制御技術普及プロジェクト現地研修講師、アイシーネット (株) (2012.10.14-10.23)

- I-G-5. 鈴木克明「平成 24 年度特別表彰（研究活動表彰）」熊本大学 NHK 学園創立五十周年特別感謝状を授与（2012.10.01）
- I-G-6. 中野裕司（2012）情報処理学会 情報教育シンポジウム SSS2012（Summer Symposium in Shizuoka 2012）プログラム委員，三保園ホテル，静岡，2012 年 8 月 20-22 日．
- I-G-7. 鈴木克明、博士論文計画書審査会委員（2012.5.21 青森県立保健大学）
- I-G-8. 鈴木克明、非常勤講師（2012.5.21-22 青森県立保健大学）
- I-G-9. 中野裕司（2012）日本の大学事例(2) 熊本大学教授システム学専攻（シリーズ 大学と社会を結ぶ e ポートフォリオ第 18 回）．文部科学教育通信, No.291, 2012 年 5 月 14 日号, 21-22
- I-G-10. 中野裕司（2012）日本の大学事例(1)熊本大学教授システム学専攻（シリーズ 大学と社会を結ぶ e ポートフォリオ第 17 回）．文部科学教育通信, No.290, 2012 年 4 月 23 日号, 18-19
- I-G-11. Suzuki, K., Program Committee Member, CSEDU2012, 4th International Conference on Computer Supported Education, 16-18 April, 2012 Porto, Portugal
- I-G-12. 大森不二雄（2012）「英国の大学の質保証システムと学習成果アセスメント」国立教育政策研究所プロジェクト研究（研究代表者：深堀聡子）調査研究報告書『学習成果アセスメントのインパクトに関する総合的研究（研究成果報告書）』、72-105
- I-G-13. 渡邊あや（2012）「フィンランド」『諸外国における後期中等教育後の教育機関における職業教育の現状に関する調査研究報告書』（平成 23 年度文部科学省委託生涯学習施策に関する調査研究）、46-67
- I-G-14. 鈴木克明、知的能力の可視化 WG 成果報告書、サイエンティフィック・システム研究会（WG 代表：阪井和男明治大学教授）（WG 委員、執筆担当：3.3.1 インストラクショナルデザインの視点からのまとめ 69-71、資料提供：Instructional Design 概論（第 3 回会合）137-152、Story-centered Curriculum と知的能力の可視化（第 8 回会合）178-189）（2012.3）

- I-G-15. 鈴木克明、初等・中等・高等教育における教育方法の改善・開発に関する総合的研究（平成 21～23 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書（研究代表者：吉崎静夫日本女子大学教授、21300314）（研究分担者、執筆担当（編著）：第 5 章大学における教育方法の改善・開発 228－273）（2012.3）
- I-G-16. 鈴木克明、教授システムと学習意欲デザインを救急看護師教育へ「救急看護& トリアージ（特集：救急看護師の教育体制と実践）」2012 年 2－3 月号（第 1 巻 6 号）88－92
- I-G-17. 中野裕司（2011）鹿児島大学非常勤講師
- I-G-18. 鈴木克明、博士論文審査会委員（2012.1.27 電気通信大学）
- I-G-19. 渡邊あや（2011.12）「フィンランドにおける言語活動充実のための取組」『山形教育』（山形県教育委員会）360 号、14 - 17
- I-G-20. 【平成 22 年度情報教育研究集会(2011 年 12 月 7-9 日) 優秀ポスター賞】
中野裕司, 永井孝幸, Muhammad Wannous, Web アプリケーション作品共有機能の実現 -JSP 入門授業の事例-
- I-G-21. 中野裕司（2011-2012）大学 ICT 推進協議会, オープンソース技術部会 主査
- I-G-22. 中野裕司（2011）大学 ICT 推進協議会, 2011 年度年次大会実行委員
- I-G-23. 中野裕司（2010-2012）情報処理学会 調査研究運営委員会 教育学習支援情報システム研究運営委員会（CLE）委員
- I-G-24. 喜多敏博、中野裕司（2011-2012）大学 e ラーニング協議会 第 1 部会(ユーザーインターフェイスとシステム連携検討部会)世話人校, 代表幹事校
- I-G-25. 中野裕司（2011）国立大学法人徳島大学情報化評価委員
- I-G-26. 中野裕司, 特定非営利活動法人 くまもとインターネット市民塾 副理事長
- I-G-27. 中野裕司, 特定非営利活動法人 地域学習プラットフォーム研究会 「ICT の活用による生涯学習支援事業」 e ポートフォリオ研究ワーキング会議 委員
- I-G-28. Hiroshi Nakano, Program Committee, INFORMATICS'2011 (International Scientific Conference on Informatics), November 16-18, Ro??ava, Slovakia
- I-G-29. Hiroshi Nakano, Program Committee, ICETA2011 (Information and Communication Technologies in Learning), October 27-28, 2011, Stara Lesna, The High Tatras, Slovakia

- I-G-30. 鈴木克明・根本淳子、国際協力機構（JICA）ICT キャパシティビルディングプロジェクト短期専門家（派遣番号：B0800434143）、フィジー共和国スバ市（南太平洋大学）（2011.10.12-10.24）
- I-G-31. 渡邊あや「現職教員の資質能力向上への取り組み：フィンランド編（上）（下）」『週刊教育資料』第 1179 号（2011 年 9 月 26 日号）、1180 号（2011 年 10 月 11 日号）、22-23
- I-G-32. 北村士朗「より業務成果のあがる職場を目指して」（全 3 回）四天王寺の杜（研修情報誌）,福岡県市町村職員研修所, 2011.10.03、2012.2.15,2012.4.02
- I-G-33. 渡邊あや（2011）「フィンランド」東北大学高等教育開発推進センター『諸外国の大学教授職の資格制度に関する実態調査』, 62-73
- I-G-34. 鈴木克明、博士論文計画書審査会委員（2011.7.21 青森県立保健大学）
- I-G-35. 渡邊あや（2011）「『質』に関する議論からフィンランドの教育を考える」『学校教育』第 1125 号（2011 年 4 月号）、70-73
- I-G-36. 二宮皓、田崎徳友、ト部匡司、奥田久春、金井裕美子、渡邊あや（2011）「国際学力調査の教育制度と教育内容への影響」中国四国教育学会編『教育学研究紀要（CD-ROM 版）（第 56 巻）』586-594
- I-G-37. 渡邊あや（2011）「教育制度・教育課程の観点から見たフィンランドの教育と PISA」『生活体験学習研究』第 11 号、1-10
- I-G-38. 渡邊あや（2011）「フィンランド」国立教育政策研究所『諸外国における教育課程の基準』, 77-90
- I-G-39. 大森不二雄（2011）「『社会市場』と高等教育一知を媒介にした市場と社会の関係性の再考—」科学研究費補助金 基盤研究（B）（研究代表者：羽田貴史）平成 20-22 年度報告書『アジア・太平洋地域における高等教育市場化政策の国際比較研究』, 62-105 頁
- I-G-40. 鈴木克明（2011）「論文を書いている暇はない？ まあそう言わずに！[巻頭言]」教育システム情報学会誌, 28(3) 1-2
- I-G-41. 鈴木克明、プログラム委員会共同委員長（招待参加） 第 2 回 Global Learn Asia Pacific、メルボルン市（オーストラリア）（2011.3.28-4.2）

- I-G-42. 鈴木克明・根本淳子、国際協力機構（JICA）ICT キャパシティビルディングプロジェクト短期専門家（派遣番号：B0800434143）、フィジー共和国スバ市（南太平洋大学）（2011.3.12-3.27）
- I-G-43. 鈴木克明(2011)「[寄稿] 学びやすい環境を大学につくる：ラーニングコミュニティとチューター承認制度 <上><下>」教育学術新聞（教育学術オンライン）第2428号（1月19日）第2429号（1月26日）
- I-G-44. 鈴木克明(2011)「[新春企画] インストラクショナルデザイン：FD担当者のID的基礎とは何か」教育学術新聞（教育学術オンライン）第2426号（1月1日）
- I-G-45. 中野裕司（2010）国立大学法人佐賀大学総合情報基盤センター外部評価委員
- I-G-46. 中野裕司（2-1・2-3担当，2010）富山インターネット市民塾推進協議会 文部科学省委託事業「調査研究報告書：平成22年度ICTの活用による生涯学習支援事業(国内における実証的調査研究)」
- I-G-47. 鈴木克明、JICA ミャンマー児童中心型教育強化プロジェクトフェーズ2（第4年次）現地研修講師（アイシーネット株）（2010.12.17-29 ミャンマー国ヤンゴン市）
- I-G-48. 北村土朗「解説 社内研修の内製化を考える」労政時報3784号（特集「研修の内製化」）,財団法人労務行政研究所,2010.10.22
- I-G-49. 二宮皓、卜部匡司、奥田久春、金井裕美子、渡邊あや（2010）「国際競争におけるグローバル・ガバナンスの実相の比較研究－研究の方法論を中心として」中国四国教育学会編『教育学研究紀要（CD-ROM版）（第55巻）』219-230
- I-G-50. Hiroshi Nakano, Program Committee, ICETA2010 (Information and Communication Technologies in Learning), October 27-29, 2010, Stara Lesna, The High Tatras, Slovakia
- I-G-51. 渡邊あや「徹底研究『教員養成と教員資格制度』の各国事情フィンランド編（上）（下）」『週刊教育資料』第1129号（2010年8月23日号）、1131号（2010年9月13日号）
- I-G-52. 鈴木克明、JICA ミャンマー児童中心型教育強化プロジェクトフェーズ2（第4年次）現地研修講師（アイシーネット株）（2010.8.10-22 ミャンマー国ヤンゴン市）

II.本プロジェクト研究アソシエート（本専攻の学生および修了生）による研究業績

II-A.学術論文 [11]件

- II-A-1. [★D] 高橋暁子, 喜多敏博, 中野裕司, 鈴木克明 (2012) 「教授者用の課題分析図作成ツールの開発ー Moodle への実装と評価」教育システム情報学会誌 29(1) : 7-16
- II-A-2. [★B] 宮原俊之, 鈴木克明, 大森不二雄(2011) 「『大学 e ラーニングマネジメント (UeLM) モデル』を用いた国内 e ラーニング事例の運営組織体制の分析」日本教育工学会論文誌 35(1) : 1-16
- II-A-3. [★D] 高橋暁子, 喜多敏博, 中野裕司, 市川 尚, 鈴木克明 (2011) 「課題分析図を用いた学習内容選択支援ツールの開発ー Moodle ブロックによる学習者向け機能の実装-」日本教育工学会論文誌 35(1) : 17-24
- II-A-4. [★A] Kato, Y. & Suzuki, K. (2011). An Approach for Redesigning Learning Environments with Flow Theory. International Journal for Educational Media and Technology, 5(1), 118-134.
- II-A-5. [★A] Nakajima, K., Nakano, H., Ohmori, F., & Suzuki, K. (2011). The Effectiveness of Campus-wide e-Learning Supports Designed by an Extended ARCS Model. International Journal for Educational Media and Technology,5(1), 150-161.
- II-A-6. 八木 秀文・喜多 敏博・根本 淳子・合田 美子・鈴木 克明 : e ラーニングにおける事前テストの効果的活用ー学習者状態を考慮したフィードバックによる学習効果向上ー, 日本 e-Learning 学会誌 Vol.11, pp.18-33, (2011.7)
- II-A-7. 松尾睦・早川勝夫・高嶋克義 (2011) 「改善志向の営業プロセス管理ー日本ベリンガーインゲルハイムの事例ー」日本マーケティング協会 季刊マーケティングジャーナル MJ 2011/WINTER 119 vol.30 No.3 : 67-81
- II-A-8. [★B] [★D] 森田晃子・根本淳子・江川良裕・鈴木克明 (2010) 「MR 教育者の自主的な学習を促す学習ポータルの開発」日本教育工学会論文誌 34 (増刊号) : 161-164
- II-A-9. [★A] [★C] 朴恵二・喜多敏博・根本淳子・鈴木克明 (2010) 「ゴールベースシナリオ (GBS) 理論に基づく情報活用能力育成教育の実践」日本教育工学会論文誌 34 (増刊号) : 165-168

- II-A-10. [★B] 村木純偉・喜多敏博・鈴木克明・根本淳子 (2010) 「OPTIMAL モデルチェックリストの開発」 日本教育工学会論文誌 34 (増刊号) : 177-180
- II-A-11. [★B] 宮原俊之・鈴木克明・阪井和男・大森不二雄(2010) 「高等教育機関における e ラーニングを活用した教育活動を支える組織支援体制-『大学 e ラーニングマネジメント(UeLM)モデル』の提案」教育システム情報学会誌 27(2):187-198

II-B.博士論文 [2]件

■2011 年度提出博士論文

- II-B-1. [★D] 天木(高橋)暁子 (2012) 「学習課題分析に基づく自己主導的な学習を支援する e ラーニングシステムモジュールの開発研究」

■2010 年度提出博士論文

- II-B-2. [★B] 宮原俊之 「高等教育機関における e ラーニングを活用した教育活動のための効果的な支援組織体制に関する研究」

II-C.国際会議 [12]件

- II-C-1. [★D] Oikawa, Y., Matsuba, R., Kita, T., Suzuki, K. and Nakano, H., (August, 2012) Development of a Similar Question Generator to Support Peer Teaching. A paper presented at ICoME 2012 (International Conference on Media in Education), Beijing, China.
- II-C-2. [★B] Nakamichi, M., Sato, S. and Suzuki, K. (August, 2012) Promotion of University-wide E-learning as Part of Faculty Development Activities. A paper presented at ICoME 2012 (International Conference on Media in Education), Beijing, China.
- II-C-3. [★A] Nakajima, K., Nakano, H., Watanabe, A., & Suzuki, K. (August, 2012) Research for Proposing the Subcategories of the Volitional Element for ARCS-V Model. A paper presented at ICoME 2012 (International Conference on Media in Education), Beijing, China.

- II-C-4. [★D] Kai, A., Nemoto, J. & Matsuba, R. (August, 2011) Designing a Japanese Language Learning System that Recommends Materials Depending on Learner's Interests and Learning Stages. A paper presented at ICoME 2011 (International Conference on Media in Education), Korea. (Proceedings, p.14)
- II-C-5. [★A] Kato, Y. & Suzuki, K. (August, 2011) An Evaluation of Compatibility Checklist based on Flow Theory for Redesigning Learning Environments. A paper presented at ICoME 2011 (International Conference on Media in Education), Korea. (Proceedings, p.67)
- II-C-6. Aoki, T. (2011.5) Report the results of resuscitation training for elementary school children conducted by the team. A poster presented at Asia Pacific Meeting on Simulation in Health Care 2011(APMSH2011), Hong Kong, China, organized by Society for Simulation in Healthcare (SSH) and the Australian Society for Simulation in Healthcare (ASSH).
- II-C-7. [★A] Kitamura, T., Tanaka, M., Hoshino, S., Nemoto, J., Watanabe A., Suzuki, K. (Dec. 2010). Offering a Story- Centered Curriculum with SNS. A poster presented at the 8th Kumamoto University Forum, Hanoi, Vietnam.
- II-C-8. Soyama-Gobayashi, K., Nemoto, J., Suzuki, K. (Dec. 2010). An analysis of CSCL at an online graduate school. A poster presented at the 8th Kumamoto University Forum, Hanoi, Vietnam.
- II-C-9. Aoki, T., (July, 2010). Influence that resolution of video image of portable terminal gives evaluator. A paper presented at ICoME 2010 (International Conference on Media in Education), Kumamoto, Japan.
- II-C-10. Takahashi, A., Kita, K., Nakano, H., Suzuki, K., (July, 2010). Improvement of a Learning-Task Analysis Diagram Module for Moodle to Support Self-directed Learning by Enhancing Advising Feature to Learners. A paper presented at ICoME 2010 (International Conference on Media in Education), Kumamoto, Japan.
- II-C-11. [★A] Kato, Y., Suzuki, K. (July, 2010). An approach for Redesigning Learning Environments with Flow Theory. A paper presented at ICoME 2010 (International Conference on Media in Education), Kumamoto, Japan.

- II-C-12. [★A] Nakajima, K., Nakano, H., Ohmori, F., & Suzuki, K. (July, 2010). The effectiveness of ID based activities by e-learning support staff with a Website and a course material designed by an extended ARCS Model. A paper presented at ICoME 2010 (International Conference on Media in Education), Kumamoto, Japan.

II-D.国内学会 [98]件

■教育システム情報学会 2012 年度第 5 回研究会

- II-D-1. [★A] 高橋暁子・伊澤睦・宮崎誠・竹岡篤永・柴田喜幸・根本淳子・鈴木克明 (2013.1.12) 「ストーリー文脈と科目横断型進捗管理機能を付加した e ラーニング環境の開発 –インターネット型大学院の事例をもとに–」教育システム情報学会研究報告 27(5), 51-58

■情報処理学会 2012 年度第 8 回 CLE 研究会

- II-D-2. 村上幸生・喜多敏博・江川良裕・中野裕司 (2012.11) 「LMS との連携を実現するための LTI 準拠学習支援ツールの実装例と実装方法」情報処理学会 CLE 研究会 (九州大学) 2012 年度第 8 回研究会研究報告 CLE8-6

■日本教育工学会 第 28 回全国大会

- II-D-3. [★C] 須曾野仁志・合田美子・鈴木克明 (2012.9) 「ARCS 動機づけモデルに着目したデジタルストーリーテリング制作授業の設計と実践」日本教育工学会第 28 回全国大会 (長崎大学) 発表論文集 259-260
- II-D-4. 及川義道・松葉龍一・喜多敏博・鈴木克明・中野裕司 (2012.9) 「Moodle に対応した類題生成ブロックおよび類題演習モジュールの開発」日本教育工学会第 28 回全国大会 (長崎大学) 発表論文集 233-234
- II-D-5. 野田啓子・渡邊あや・合田美子・鈴木克明 (2012.9) 「大学事務職員を対象とした学習支援職務ミニマム・スタンダードの開発」日本教育工学会第 28 回全国大会 (長崎大学) 発表論文集 713-714

- II-D-6. 仲道雅輝・鈴木克明 (2012.9)「パリッシュの学習者個人に係わる要因を活用した初年次教育(新入生セミナー)の効果検証」日本教育工学会第28回全国大会(長崎大学)発表論文集 279-280
- II-D-7. 中嶋康二・中野裕司・渡邊あや・鈴木克明 (2012.9)「MVP モデルの拡張に基づくARCS-VモデルのV要素下位分類の提案」日本教育工学会第28回全国大会(長崎大学)発表論文集 261-262
- II-D-8. [★C] 桑原千幸・喜多敏博・合田美子・鈴木克明 (2012.9)「キャリア教育における多段階相互評価の実践と進路選択自己効力の向上」日本教育工学会第28回全国大会(長崎大学)発表論文集 423-424
- II-D-9. 竹岡篤永・根本淳子・喜多敏博・鈴木克明 (2012.9)「学習者はどのようにしてストーリー文脈を自分の現実・体験に結びつけるのか」日本教育工学会第28回全国大会(長崎大学)発表論文集 965-966
- II-D-10. [★A] 高橋暁子・吉里孝子・本尚美・鈴木克明 (2012.9)「フィジカルアセスメント教育のペーパーペイシェントを用いたeラーニングクイズ教材の試作」日本教育工学会第28回全国大会(長崎大学)発表論文集 379-380

■情報処理学会 情報教育シンポジウム Summer Symposium in Shizuoka 2012

- II-D-11. 宮崎誠, 喜多敏博, 小山田誠, 根本淳子, 中野裕司, 鈴木克明, 「コンピテンシーに基づくカリキュラムに対応したeポートフォリオシステムの開発?学習成果物の自動収集と学習者によるリフレクションへの対応?」, SSS2012(情報処理学会情報教育シンポジウム Summer Symposium in Shizuoka 2012), 三保園ホテル, 静岡, 2012年8月20-22日, 情報処理学会シンポジウム論文集, pp.147-154 (2012-08) (査読有) .

■教育メディア学会 第19回年次大会

- II-D-12. [★A] 竹岡篤永・根本淳子・喜多敏博・鈴木克明 (2012.8)「ストーリー文脈を自分の現実・体験に結びつけるアドオンの提案」第19回教育メディア学会年次大会(東北学院大学)発表論文集 83-84
- II-D-13. [★B] 仲道雅輝・佐藤慎一・鈴木克明 (2012.8)「全学的なe-learning普及施策を踏まえた教育のe-learningへの意識変容に関わる研究」第19回教育メディア学会年次大会(東北学院大学)発表論文集 55-56

II-D-14. [★A] 高橋暁子・吉里孝子・本尚美・鈴木克明 (2012.8) 「フィジカルアセスメント教育の e ラーニングにおける教材作成者向けの事例型クイズテンプレートの試作」第 19 回教育メディア学会年次大会 (東北学院大学) 発表論文集 63-64

■教育システム情報学会 第 37 回全国大会

II-D-15. 柴田喜幸, 鈴木克明 (2012) ストーリー型 e ラーニングにおける先行 2 理論の適合の相互関係分析. 教育システム情報学会第 37 回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:364-365

II-D-16. 多賀万里子, 阪井和男, 鈴木克明 (2012) 学習者の行動変化を促すケースメソッドの効果と Can-Do リストの拡張および他の科目への展開 - 法学部教養教育における実験的取り組み -. 教育システム情報学会第 37 回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:226-227

II-D-17. [★A] [★B] 前田和哉, 鈴木克明, 片野俊行 (2012) プロジェクトマネージャー育成のためのゴールベースシナリオ理論に基づいた e ラーニング教材の設計及び開発. 教育システム情報学会第 37 回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:224-225

II-D-18. 【2012 年度大会奨励賞】千葉佑介, 北村土朗, 喜多敏博, 合田美子 (2012) 講師力の定義・構造化と有用性の検証～研修事業会社の講師力向上への取り組みを例として～. 教育システム情報学会第 37 回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:164-165

II-D-19. 米谷淳, 合田美子 (2012) Web-based FD の ID 論的検討 -FD の現状分析-. 教育システム情報学会第 37 回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:110-111

II-D-20. 鈴木雄清, 松葉龍一, 喜多敏博, 鈴木克明 (2012) ARCS 動機づけモデルに基づく授業診断システムの構築. 教育システム情報学会第 37 回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:108-109

II-D-21. 加藤泰久, 鈴木克明 (2012) フロー理論に着目した学習教材・学習環境の再設計支援ツールの e ラーニング教材に適用した際の評価について. 教育システム情報学会第 37 回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:376-377

II-D-22. 鎌江力, 松葉龍一, 江川良裕, 鈴木克明 (2012) 高等教育機関における e ラーニング活用向け支援サービス構築ツール開発. 教育システム情報学会第 37 回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:372-373

- II-D-23. [★B] 岩永康之, 廣庭晴香, 森田晃子, 早川勝夫, 鈴木克明 (2012) ID 初心者がIDを体感するためのID学習会方略 - 既存心肺蘇生講習会の三変化 - . 教育システム情報学会第37回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:212-213
- II-D-24. [★B] 荒井直美, 鈴木克明 (2012) ビデオ教材を使用した医療者用教育コースの現状と今後の展望 - 患者急変対応コース for Nurses (KIDUKI コース) - . 教育システム情報学会第37回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:210-211
- II-D-25. [★B] 廣庭晴香, 白木信義, 岩永康之, 森田晃子, 早川勝夫, 鈴木克明 (2012) 医療従事者パフォーマンス改善プロジェクトにおける現状分析 - 94床急性期病院の取り組み事例 - . 教育システム情報学会第37回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:206-207
- II-D-26. 甲斐晶子, 根本淳子, 松葉龍一, 鈴木克明 (2012) 関心と学習段階に適応して言語使用場面型タスクを推薦する日本語学習ナビゲーションシステムの形成的評価. 教育システム情報学会第37回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:158-159
- II-D-27. [★C] 桑原千幸, 喜多敏博, 合田美子, 鈴木克明 (2012) キャリア教育における多段階相互評価学習の実践と効力感. 教育システム情報学会第37回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:88-89
- II-D-28. [★D] 石井嘉明, 久保田真一郎, 北村士朗, 中野裕司 (2012) 柔軟な協調学習環境を実現する Google Docs・Moodle 連携システムの開発. 教育システム情報学会第37回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:172-173
- II-D-29. 米山基, 中野裕司, 久保田真一郎, 合田美子 (2012) 学習成果の観点からみたLMS・学習ツール間連携技術の比較検討. 教育システム情報学会第37回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:116-117
- II-D-30. [★B] 野田啓子, 渡邊あや, 合田美子, 鈴木克明 (2012) ゴールベースシナリオ(GBS)理論に基づく大学事務職員向け学習支援職務 e ラーニングプログラムの開発. 教育システム情報学会第37回全国大会(千葉工業大学)発表論文集:14-15

■日本教育工学会 2012年度 第1回研究会

- II-D-31. [★C] 谷塚光典・東原義訓・渡邊あや・喜多敏博・鈴木克明 (2012.5) 「教員養成カリキュラムにおける体験的活動の検討 - NCATE Blue Ribbon Panel のデザイン原則を手がかりに -」『日本教育工学会研究報告集 JSET12-2』19-24

■教育システム情報学会 特集論文研究会

- II-D-32. 柴田喜幸・鈴木克明 (2012.3) 「ストーリー型 e ラーニングの設計を支援する魅力分析ツールの開発」教育システム情報学会研究報告 26(7), 141-146
- II-D-33. 加藤泰久・鈴木克明 (2012.3) 「フロー理論に着目した学習教材・学習環境の再設計支援ツールの評価」教育システム情報学会研究報告 26(7), 135-140

■教育メディア学会第 18 回年次大会

- II-D-34. [★A] 竹岡篤永・根本淳子・喜多敏博・鈴木克明 (2011.11) 「学習者の現実の文脈とシナリオ文脈の「ずれ」を見つけ出すために」第 18 回教育メディア学会年次大会 (国際基督教大学) 発表論文集 163-164
- II-D-35. [★D] 高橋暁子・喜多敏博・中野裕司・合田美子・鈴木克明 (2011.11) 「課題分析図に基づく Moodle 用の事前・後テストモジュールの出題効率向上と学習計画の立案支援を目的とした改訂」第 18 回教育メディア学会年次大会 (国際基督教大学) 発表論文集 13-14

■情報処理学会 CLE 研究会 2011 年度第 5 回研究会

- II-D-36. 高橋暁子・喜多敏博・中野裕司・合田美子・鈴木克明 (2011.10) 「LCM(Learner's Controlling Map)/LCM エディタの汎 LMS 化の検討」情報処理学会 CLE 研究会 (帝京大学) 2011 年度第 5 回研究会研究報告 CE111CLE5-10

■日本教育工学会第 27 回全国大会

- II-D-37. 早川勝夫, 根本淳子, 合田美子, 喜多敏博, 鈴木克明 (2011.9) 学習者の視点で捉えた知識と行動学習における学習環境の役割. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:925-926
- II-D-38. 高橋暁子, 喜多敏博, 中野裕司, 合田美子, 鈴木克明 (2011.9) 課題分析図に基づく Moodle 用の事前・事後テストモジュールの形成的評価. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:911-912
- II-D-39. 甲斐晶子, 根本淳子, 松葉龍一, 鈴木克明 (2011.9) 学習者の関心・学習段階に応じた日本語学習課題推薦ツールのユーザビリティ評価. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:739-740

- II-D-40. [★C] 上田勇仁, 合田美子, 根本淳子, 鈴木克明 (2011.9) Project Based Learning における学習評価手法の動向と特徴. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:677-678
- II-D-41. [★B] 紙谷あゆ美, 合田美子, 根本淳子, 玉井 ゆう子, 北村士朗 (2011.9) 内視鏡カメラ管理業務の効率化を図るための教材設計. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:621-622
- II-D-42. 石田百合子, 根本淳子, 松葉龍一, 鈴木克明 (2011.9) キャリア・コンサルタント向け継続学習ツールの要件提案. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:575-576
- II-D-43. 宮崎誠, 松葉龍一 (2011.9) e ポートフォリオを活用した授業実践 ミネソタ大学訪問調査報告. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:463-464
- II-D-44. 中畠康二, 中野裕司, 渡邊あや, 鈴木克明 (2011.9) 教員の e ラーニング実施における初動と継続を支援する動機づけ支援方策の提案. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:395-396
- II-D-45. [★B] 野田啓子, 渡邊あや, 合田美子, 鈴木克明 (2011.9) 大学事務職員を対象とした学習支援機能開発プログラムの基本設計. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:381-382
- II-D-46. [★A] 片野俊行, 根本淳子, 中野裕司, 鈴木克明 (2011.9) S C C に基づいた e ラーニングによるプロジェクトマネジメントコースの実施結果報告. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:373-374
- II-D-47. 桑原千幸, 鈴木克明 (2011.9) キャリア教育の評価研究の枠組みと動向. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:261-262
- II-D-48. [★D] 市橋真, 中野裕司, 根本淳子, 喜多敏博 (2011.9) 学習管理システムにおける学習者相互の『つながり感』を高める機能に関する研究. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:251-252
- II-D-49. [★D] 石井嘉明, 久保田真一郎, 北村士朗, 中野裕司 (2011.9) Web アプリケーション間連携による協調学習環境の実現に向けた調査及び検討. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:247-248

II-D-50. 及川義道, 松葉龍一, 喜多敏博, 鈴木克明, 中野裕司 (2011.9) Moodle に対応した類題生成サーバの開発. 日本教育工学会第 27 回全国大会 (首都大学東京) 発表論文集:235-236

■教育システム情報学会第 36 回全国大会

II-D-51. 柴田喜幸, 鈴木克明 (2011) ストーリー型 e ラーニング開発における品質向上ツールの開発. 教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学)発表論文集:470-471

II-D-52. [★C] 上田勇仁, 合田美子, 根本淳子, 鈴木克明 (2011) 問題解決型学習デザインの実践状況と特徴 - Project Based Learning と Problem Based Learning を中心に -. 教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学)発表論文集:346-347

II-D-53. 多賀万里子, 阪井和男, 鈴木克明 (2011) 学習者の行動変化を確認する論理思考の Can-Do リストを用いたリフレクションの効果- 法学部初年次における実験的試み -. 教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学)発表論文集:312-313

II-D-54. [★B] 青木太郎 (2011) 看護師向け医療シミュレーショントレーニングには事前学習は必要か? - 医療シミュレーションコースの事前学習用に制作した e ラーニングコースの報告 -. 教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学)発表論文集:280-281

II-D-55. [★B] 宮原俊之, 鈴木克明 (2011) 支援組織体制モデル「大学 e ラーニングマネジメント (UeLM) モデル」が社会人学習者に与える効果. 教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学)発表論文集:236-237

II-D-56. [★B] 野田啓子 (2011) 初等中等教員研修における PDCA サイクルの確立に向けた「教育研究・研修支援システム」の導入の試み - e ポートフォリオを用いて -. 教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学)発表論文集:230-231

II-D-57. 高橋暁子, 喜多敏博, 中野裕司, 合田美子, 鈴木克明 (2011) e ラーニングにおける適応型テストの事例調査. 教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学)発表論文集:176-177

- II-D-58. 桑原千幸 (2011) キャリア教育における相互評価学習の実践と効果—評価能力と自己効力感の観点から—. 教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学)発表論文集:166-167
- II-D-59. 加藤泰久, 鈴木克明 (2011) 学習環境再設計支援のためのフロー理論適合度チェックリストの活用におけるユーザインタフェースの評価について. 教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学)発表論文集:162-163
- II-D-60. 丸田拓, 渡邊あや, 入口紀男 (2011) デジタル教科書における著作権に関する一考察. 教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学)発表論文集:150-151
- II-D-61. 及川義道, 中野裕司, 喜多敏博, 松葉龍一, 鈴木克明(2011)問題生成システムの開発と授業における学習活動に与える影響について.教育システム情報学会第 36 回全国大会(広島市立大学)発表論文集:36-37

■教育システム情報学会 2011 年度第 1 回研究会

- II-D-62. 柴田喜幸, 児玉裕美, 佐藤亜紀, 波田哲朗, 鈴木克明, 柴田弘子 (2011.5) シラバス連動による学部授業と e ラーニングの有機的統合の試み. 教育システム情報学会研究報告 26(1), 81-82

■第 4 回 Ja Sakai カンファレンス

- II-D-63. 宮崎誠, 宇佐川毅, 中野裕司, 喜多敏博, 本間里見, 大森不二雄, (2011) 熊本大学における Sakai による全学向け e ポートフォリオシステムの構築, 第 4 回 Ja Sakai カンファレンス, 関西大学, 大阪府, 2011 年 3 月 18 日.

■熊本大学 e ラーニング推進機構 e ポートフォリオ国際セミナー

- II-D-64. 宮崎誠, 宇佐川毅, 中野裕司, 喜多敏博, 本間里見, 大森不二雄, (2011) 熊本大学 e ポートフォリオシステムの開発, 熊本大学 e ラーニング推進機構 e ポートフォリオ国際セミナー, 熊本大学, 熊本県, 2011 年 3 月 10 日.

■教育システム情報学会特集研究会

- II-D-65. 高橋暁子, 喜多敏博, 中野裕司, 鈴木克明 (2011.3) 「Moodle における教授者用の課題分析図作成ツールの開発」教育システム情報学会研究報告

■第5回医療系大学 e-ラーニング全国交流会

- II-D-66. [★B] 青木太郎 (2011.1) 「患者急変シミュレーションコースの事前勉強用途として試作した汎用 e-ラーニング教材の制作報告」第5回医療系大学 e-ラーニング全国交流会 (産業医科大学)
- II-D-67. 小野暁・森田晃子 (2011.1) 「成果につながるシナリオ型 e-Learning を活用したブレンディッド学習の実践」第5回医療系大学 e-ラーニング全国交流会 (産業医科大学)

■情報処理学会第3回 CLE 研究発表会

- II-D-68. 宮崎誠, 中野裕司, 喜多敏博, 小山田誠, 根本淳子, 鈴木克明, (2010) 学習成果物取得自動化による e-ポートフォリオシステムの実現, 情報処理学会第3回 CLE 研究発表会, 京都大学, 京都府, 2010年12月9日, 情報処理学会研究報告 Vol.2010-CLE-3, No.9, pp. 1-7.

■日本 e-Learning 学会 2010 年度学術講演会

- II-D-69. 八木秀文・喜多敏博・根本淳子・合田美子・鈴木克明(2010.11) 『e-ラーニングの特性を活かす事前テストの効果的活用—学習者状態を考慮したフィードバックと学習効果向上—』日本 e-Learning 学会 2010 年度学術講演会(法政大学)

■日本教育工学会第26回全国大会

- II-D-70. 米山あかね・根本淳子・遠藤孝治・久保田真一郎・鈴木克明(2010.9) 『「授業設計書」フォーム活用手法に提案—既存ツールの効果的活用とスタッフのスキル育成を目指して—』日本教育工学会第26回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 285-286
- II-D-71. 中島康二・中野裕司・大森不二雄・鈴木克明(2010.9) 「e-ラーニング支援組織による ID に基づく教材開発と運用の試み—情報リテラシー学習 e-ラーニングの事例—」日本教育工学会第26回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 289-290
- II-D-72. 八木秀文・喜多敏博・根本淳子・合田美子・鈴木克明(2010.9) 「事前テストにおけるフィードバックによる学習効果向上—フィードバックが学習モチベーションに与える影響—」日本教育工学会第26回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 313-314
- II-D-73. 柴田喜幸・鈴木克明(2010.9) 「e-ラーニングにおけるストーリー型教材の構成要素分析」日本教育工学会第26回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 363-364

- II-D-74. 吉田明恵・根本淳子・喜多敏博・鈴木克明(2010.9) 「インターネット型大学院におけるオンラインオリエンテーションの改善提案—学習者の立場から—」日本教育工学会第 26 回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 417-418
- II-D-75. 北村隆始・西嶋克基・星野早苗・根本淳子・喜多敏博・鈴木克明(2010.9) 「看護指導者養成コースの問題点と実施に向けた小集団評価」日本教育工学会第 26 回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 443-444
- II-D-76. [★A][★C] 朴恵一・喜多敏博・根本淳子・鈴木克明(2010.9) 「ゴールベースシナリオ (G B S) 理論に基づく情報活用力育成教育の実践と評価」日本教育工学会第 26 回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 469-470
- II-D-77. 甲斐晶子・根本淳子・松葉龍一・鈴木克明(2010.9) 「自律学習能力を伸ばす日本語 e ラーニング教材推薦手法の試案」日本教育工学会第 26 回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 615-616
- II-D-78. 植田清一・北村土朗・中野裕司・鈴木克明(2010.9) 「OJT においてリフレクションを支援するマイクロブログの設計—若手 IT エンジニアを育成する支援ツールの検討—」日本教育工学会第 26 回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 623-624
- II-D-79. 早川勝夫・根本淳子・合田美子・喜多敏博・鈴木克明(2010.9) 「メタ認知向上を目指した成人実践学習モデルの検証」日本教育工学会第 26 回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 641-642
- II-D-80. 加藤泰久・鈴木克明(2010.9) 「学習環境再設計のためのフロー理論学習教材の作成」日本教育工学会第 26 回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 685-686
- II-D-81. [★D] 西本彰文・久保田真一郎(2010.9) 「e ラーニング質保証レイヤーモデルを用いた授業分析・設計支援ツールの設計」日本教育工学会第 26 回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 901-902
- II-D-82. 高橋暁子・喜多敏博・中野裕司・鈴木克明(2010.9) 「課題分析図作成支援ツール “Learner’s Controlling Map Editor” への Moodle 新規コース作成支援機能の追加」日本教育工学会第 26 回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 953-954
- II-D-83. 宮崎誠・中野裕司・喜多敏博・小山田誠・根本淳子・松葉龍一・鈴木克明(2010.9) 「Sakai OSP に基づく e ポートフォリオシステムの開発—独自開発による学習成果物取得自動化の実現—」日本教育工学会第 26 回全国大会 (金城学院大学) 発表論文集 967-968

■教育システム情報学会第 35 回全国大会

- II-D-84. 仲道雅輝・佐藤慎一・喜多敏博・中野裕司・大森不二雄・鈴木克明(2010.8) 「全学的に e-learning 普及推進する仕掛けの提案—日本福祉大学を事例として—」教育システム情報学会第 35 回全国大会(北海道大学)発表論文集 23-24
- II-D-85. 高橋暁子・喜多敏博・中野裕司・鈴木克明(2010.8) 「課題分析図に基づく Moodle 用の事前・事後テストモジュールの開発」教育システム情報学会第 35 回全国大会(北海道大学)発表論文集 49-50
- II-D-86. [★D] 麻生和彦・松葉龍一・鈴木克明・中野裕司(2010.8) 「黑板講義の見たいところを受講者が自由に視聴可能な講義ビデオ配信システムの設計と実装の試み」教育システム情報学会第 35 回全国大会(北海道大学)発表論文集 141-142
- II-D-87. 加藤泰久・鈴木克明(2010.8) 「学習環境に対するフロー理論の適合度チェックリストの提案について」教育システム情報学会第 35 回全国大会(北海道大学)発表論文集 149-150
- II-D-88. 柴田喜幸・鈴木克明(2010.8) 「ストーリーテリングの構造に関する比較研究」教育システム情報学会第 35 回全国大会(北海道大学)発表論文集 215-216
- II-D-89. [★B] 宮原俊之・鈴木克明(2010.8) 「高等教育機関における立場の異なる学習者と e ラーニングを活用した教育活動を支える組織支援体制について」教育システム情報学会第 35 回全国大会(北海道大学)発表論文集 229-230
- II-D-90. 宮崎誠・喜多敏博・中野裕司・大森不二雄・鈴木克明(2010.8) 「Sakai における Web サービスによる連携機能の現状」教育システム情報学会第 35 回全国大会(北海道大学)発表論文集 261-262
- II-D-91. 多賀万里子・阪井和男・鈴木克明(2010.8) 「論理思考力を向上させるための補助教材の改善と学習者の行動変化を確認するためのアンケートの作成—法学部初年次における実験的試み—」教育システム情報学会第 35 回全国大会(北海道大学)発表論文集 329-330
- II-D-92. 八木秀文・鈴木克明(2010.8) 「製造工場における若手従業員の教育支援策—適応的熟達度を目指した第一歩—」教育システム情報学会第 35 回全国大会(北海道大学)発表論文集 439-440

II-D-93. [★A] 北村隆始・田中光子・星野早苗・根本淳子・渡邊あや・喜多敏博・鈴木克明(2010.8) 「SNS型ストーリー中心型カリキュラムの実践検証—インジェクショントレーナー養成コース—」教育システム情報学会第35回全国大会(北海道大学)発表論文集 413-414

II-D-94. [★A][★C] 朴恵一・喜多敏博・根本淳子・鈴木克明(2010.8) 「ゴールベースシナリオ(GBS)理論に基づく情報活用力育成教育の実践と効果」教育システム情報学会第35回全国大会(北海道大学)発表論文集 447-448

■第17回日本教育メディア学会年次大会

II-D-95. 青木太郎(2010.7) 「モバイル端末の動画解像度が運動技能の評価に与える影響」第17回日本教育メディア学会年次大会(熊本市国際交流会館)発表論文集 35-36

II-D-96. 高橋暁子・喜多敏博・中野裕司・鈴木克明(2010.7) 「Moodleにおける課題分析図に基づく事前・事後テストモジュールの設計」第17回日本教育メディア学会年次大会(熊本市国際交流会館)発表論文集 85-86

II-D-97. 八木秀文・喜多敏博・合田美子・鈴木克明(2010.7) 「電子掲示板による協調学習での閲覧行動調査」第17回日本教育メディア学会年次大会(熊本市国際交流会館)発表論文集 75-76

■大学教育学会第32回大会(2010.6 愛媛大学)

II-D-98. 上田勇仁(2010.6) 「高等教育機関における正課外教育プログラムの学習成果測定の試み」

職業人教育システムの
イノベーション研究拠点形成プロジェクト
2010年度～2012年度成果報告書

発行日：2013年2月10日

発行者：熊本大学大学院社会文化科学研究科
教授システム学専攻

<http://www.gsis.kumamoto-u.ac.jp/>